

○女綿入重ねの上着より下着の長さをつめる寸法。

袖丈 三分、袖付 一分、袖幅 一分、袖口上着と同じ。  
 身丈 一分、衿肩 一分、後幅 一分、前幅 二分、衿幅 一分、衿丈 三分(左右にて六分) 裙下上着と同じ、行 一分、衿幅上着と同じ。

○常巾二丈七尺五寸の布を以て

男服袴の裁方及積方。(第百四圖)

但袖丈を一尺四寸にし、衿下を四寸五分にして、身丈と衿及衿とを求むる法。

積方。袖丈の四倍を總尺より減じ、其残りに、衿下の四寸五分を二倍せしものを加へ、六にて除せば

圖四百第

社	ビクナ	九	ミ	ミ	ソ	ソ
五	尺	四	口	口	テ	テ
分	寸	寸				

袖丈一尺四寸  
 衿肩二寸三分  
 丈三尺八寸  
 衿衿地六尺七寸  
 衿丈四尺八寸  
 衿丈三尺二寸五分

算式

$$\begin{aligned} \text{袖丈 } 14, \times 4 &= 56, & \text{總丈 } 275, - 56, &= 219, \\ \text{衿下 } 4,5 \times 2 &= 9, & 219, + 9, &= 228, \\ 228, \div 6 &= 38, \text{身丈} & 38, \times 2 &= 76, \\ 76, - 9, &= 67, \text{衿衿地} \end{aligned}$$

身丈を得、又身丈を二倍し、衿下の二倍即ち九寸を減ずれば、衿衿地を得るなり。

○常幅二丈九尺の布を以て、女

服袴の裁方及積方。(第百五圖)

但袖丈一尺六寸、衿下五寸五分の積り。

積方。袖丈の四倍を總尺より減じ、其の残りに、衿下の五寸五分を二倍せしものを加へ、六にて除せば身丈を得、又身丈を二倍し、それより衿下の二倍を減ずれば、衿衿地を得るなり。

圖五百第

ソ	ソ	ミ	ミ	ク	ク
テ	テ	口	口	リ	リ

袖丈一尺六寸  
 衿肩二寸五分式  
 身丈三尺九寸五分  
 衿衿地六尺八寸  
 衿丈三尺四寸  
 衿丈四尺八寸

算

$$\begin{aligned} \text{袖丈 } 16, \times 4 &= 64, & 290, - 64, &= 226, \\ 5,5 \times 2 &= 11, & \text{衿下 } 226, + 11, &= 237, \\ 237, \div 6 &= 39,5 \text{身丈} & 39,5 \times 2 &= 79, \\ 79, - 11, &= 68, \text{衿衿地} \end{aligned}$$

○本裁男單物の縫方。

先づ袖の表を見て、袖下の兩端を五六分残し、淺く縫ひて引返し袖の裏を見て袖附の方を右とし、袖丈印の所を縫ひ、袂は形紙を當て印を附け、袖口明の所迄縫ひ、此所にて絲を能く止め、口明の所は、細く三つ折にして針目を二三分位に紘け、袖形は五つ以上稜を取り、袖付を右とし、左の袖は自己の向ふに折を附け、右の袖は自己の方に折を附け、引返して正しくなし、袖幅の印を附け、人形袖ならば、人形を縫ひ、次に衿を取り、裾下を三つ折になし、針目を三分位にして、裾下の印より一寸上迄紘け、次に肩當の裁目の所を二つ折にして縫ひ、次に尻當へ折をつけ、身頃を取り、衿肩を右とし、身頃を自己の方に、肩當を自己の向ふに持ち、揚の印より少しく下迄脊を縫ひ、此所にて尻當を向ふの方に持ち、身頃と共に

に縫ひ、次に今縫ひたる所より縫込の方に寄りたる所を今一度縫ひ、折を自己の方に返して下に置き、後幅と肩幅との印を附け、其所に折を附け、次に尻當を紘附け、次に揚をなすには、衿肩を自己の方に、裾口を自己の向ふに持ち、下なる印を山として折を附け、次に袖付より一寸下りし所の印に又折を付け、其所を後幅の印より印まで縫ひ、折目は裾口の方に返し、次に前の揚も斯の如くにして縫ひ、次に左右共後身頃を自己の方に見て脇を縫ひ、折目は、前身頃の方に返し、次に袖附の所は、身頃と袖とを四枚共に止め、身頃は折り、袖の縫込は開きて始と終り一寸程の間は、身頃を淺く縫ひ、それより上は一分縫込に縫ひ、折目は袖の方に返し、次に表に少し針目を出して肩當を綴附け、又袖附の所にて身頃の縫込を前後に開き、前身頃の方に一分交へて二度縫ひ、其縫込を前後に割りて綴附け、次に前幅及抱幅と、其中間とに幅印をな

し、其所に折を付けて衽を揃へ、待針を刺し、左右共裾より衽を縫  
 付け、折目は衽の方に付け、縫込の端を折りて衽に新付け、衽先の  
 所を身頃と共に綴ぢ、次に裾口は幅二分五厘にして三つ折にな  
 し、針目を三分位にし、縫目毎に能く絲止をなして新付け、次に表  
 衿と裏衿とにて身頃を挟み、脊縫より左右に衿を付け下げ、衿先  
 の所は、極めて淺く衽を縫ひ、衿先は一分中を縫ひ、折目は裏の方  
 に返して綴付け、次に前身頃の縫込を衽に比ひべて斜に引き伸し  
 縫込を正しくなして衽に綴付け、三つ衿に心を入れ衿幅印を附  
 け、衿先を能く綴ぢ、衿を新け、然る後木綿物ならば、霧水きりづみを吹き、熨し  
 を能く伸し、正しく疊み置くなり。

○女單物の縫方。

衿を廣く新け、八つ口を明け、揚のなきのみにして、其の他は、男服  
 と同様なり。

○女服袴の縫方。

先づ裏袖に袖口布を掛け、次に裏袖を向ふに表袖を自己の方に  
 持ち、口明の印を合せ、表と裏とを少し緩ゆるくし、袖口布のみを少し  
 く引きつりて縫ひ、五厘きせを掛けて折目は表の方に返し、次に左  
 の袖は表を自己の方に持ち、口明を四枚共に止め、それより袂の  
 所迄縫ひ、絲を切りて下に置き、袖幅の印を付け、幅及丈も、表を緩  
 くして八つ口を縫ひ、其折目は裏の方に返し、次に袖下は、四枚共  
 に縫ひ、袖形を揃へ、表の方に折を付け、引返し、縫目を正しくして、  
 躰絲を掛け、次に表と裏の脊と脇を縫ひ、裾を合せ、襷を極めて針  
 目を五分位にして、表へ二針、裏に一針、裏前幅へ三針、裏後幅に四  
 針出して襷綴をなし、次に脊と脇との縫目を綴ぢ、身の八つ口を  
 縫ひ、袖附は身頃と袖とを四枚共に絲止めをなし、表の方は身頃

を折りて一分縫代になして袖を少し緩く縫付け、折目は袖の方に返し、裏袖は一分の縫代になして折り、身頃を開きて縫付け、其縫込は身頃の方に折を付け、次に前幅の端を裏表と共に綴ぢ、前幅及び抱幅と其中間とに印を付け、次に裏表の衽を合せて裾を拵へ、針目を五分になして隠躰をなし、衽にて身頃を挟み、衽を裾より四つ縫にし、折目は表の方に付け、衽幅は表と裏とを揃へて折を付け、裾下を縫ひ、引返して正しくし、衽先を身頃と共に綴附け、表衽と裏衽とにて、身頃を挟み、脊より左右に衽を附下げ、衽先の所は、衽を極めて浅く縫ひ、衽先は、一分中を縫ひ、折目は裏の方に返して縫付け、前身頃の縫込は、衽に比べて斜に引き伸し、衽幅の印を付け、衽を拵け、然る後之を疊み置くなり。裏衽幅を一分狭くす。

○男服衽縫方。

衽を拵け、八つ口を明けず、揚をなすのみにして、其の餘は女衽の縫方と異なる事なければ、之を畧す。但袖の縫方は袖口を縫合せ、口明を四つ止めになして袂の角まで縫ひ、糸を切らずに置きて、袖幅印をなし、幅標より二寸五分袖口に寄りたる所まで四枚共に縫ひ、其所にて一針糸止めをなし、其糸にて幅二寸五分の間と人形とを裏表別々に縫ふなり。

○女服口綿入の縫方。

裏袖に袖口布を縫ひ付け、袖口明下を四分の縫代になして、袖口布丈の終りまで縫ひ置き、次に表袖は口明標より下を裏袖を縫ひたる所まで縫ひ、其所にて一針糸止めをなし、其糸を切らずに裏袖をともし、次に止め、(四枚共に)袂の先まで四枚共に縫ひて糸止めをなし、次に袖幅標をなして衽の如く八つ口を縫ひ、次に袖下を四つ縫になし、次に袖口綿を縫り付け、口明止りを裏表の間にて

四枚共糸止をなし、其糸を切らずして口明を新け、其糸にて口明下を別々に縫ひたる所を少しく綴づるなり、次に衿の如く裏表の脊脇を縫ひ、裾口を縫ひ合せ、次に裾綿を入れ、但前幅より先に衿幅だけ綿を長く出し置く、衽綴ぢをなし、次に脊脇の縫目を裏表の間にて綴ぢ、次に身八つ口を縫ひ、次に袖を付け、次に裏表の前幅を揃へて、縫糸にて縫ひ合せ置き、前幅と抱幅と其中央に幅標をなし、次に裏と表の衽を揃へ、次に裾を揃へ、針目を五分位になして、隠縫を掛け、身と衽との裾口縫目を合せ、衽山より一寸位の間は裏表別々に縫ひ、それより上は衽にて身を挟みて四つ縫ひになし、次に衿下を縫ひ、次に裏表の衽幅を揃へ、衿の附く所を縫ひにて綴ぢ置き、次に衿の如く衿を付け、之を新けるなり。

○男服口綿入れの縫方。

身頃は衿と同じ、袖の縫方は口明きの所は女服と同様にし、袖下の所は男衿服の如く縫ふなり。

○二丈八尺三寸の布を以て、男服

棒衽の裁方及積方。(第百六圖)

但袖丈一尺四寸五分、衽下四寸五分。

積方。袖丈の四倍を總尺より減じ、衽下の二倍を加へ、六にて除せば、身丈を得、又身丈を二倍し、衽下の二倍を減ずれば、衿衽地を得るなり。

○二丈七尺の布を以て、女服鉤衽の裁方及積方。(第百七圖)

第百六圖

衽	衽	ゴ	ゴ	ソ	ソ
衽	衽	ロ	ロ	デ	デ
衽丈三寸五分	衽丈四尺八寸	身丈三尺九寸	衿肩二寸三分	袖丈一尺四寸五分	袖丈一尺四寸

算

$$283, - 58, = 225,$$

$$225, + 9, = 234,$$

$$39, \times 2 = 78,$$

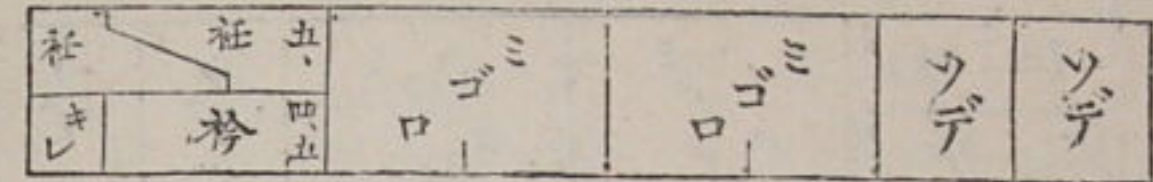
$$14,5 \times 4 = 58,$$

$$4,5 \times 2 = 9,$$

$$234, \div 6 = 39, \text{身丈}$$

$$78, - 9, = 69, \text{衿衽地}$$

圖七百第



袖丈一尺五寸五分  
衿下二寸五分  
身丈三尺八寸二分  
衿地五尺五寸二分  
衿丈四尺八寸二分  
衿下三寸二分

算式

$$\begin{aligned} 270 - 62 &= 208, & \text{袖丈} & 15,5 \times 4 = 62, \\ 186 + 5 &= 191, & \text{衿下} & 208 - 22 = 186, \\ 38,2 + 22 &= 60,2, & \text{衿下} & 191 \div 5 = 38,2 \text{身丈} \\ 60,2 - 5 &= 55, & \text{衿下} & 60,2 - 5 = 55, \text{衿地} \end{aligned}$$

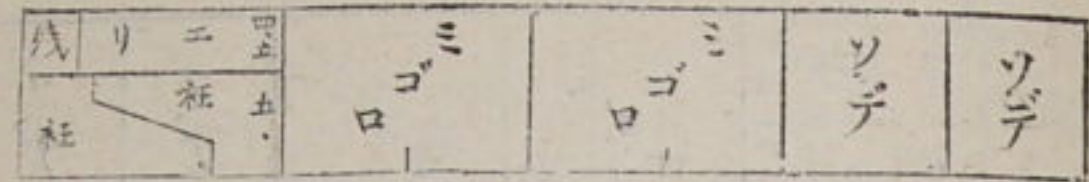
但袖丈一尺五寸五分、衿下二尺二寸、衿下五寸。

積方。袖丈の四倍を總尺より減じ、其残りより、衿下の二尺二寸を減じ、衿下の五寸を加へ、五にて除せば、身丈を得、又身丈に衿下の二尺二寸を加へ、衿下の五寸を減ずれば、衿衿地を得るなり。

○二丈七尺五寸の布を以て、男服鉤衿の裁方及積方(第百八圖)

但袖丈一尺四寸五分、衿下二尺、衿下三寸。

圖八百第



袖丈一尺四寸五分  
衿下二寸三分算  
身丈四尺  
衿地五尺七寸  
衿丈四尺八寸  
衿下三寸

式

$$\begin{aligned} 275 - 58 &= 217, & \text{袖丈} & 14,5 \times 4 = 58, \\ 197 + 3 &= 200, & \text{衿下} & 217 - 20 = 197, \\ 40 + 20 &= 60, & \text{身丈} & 200 \div 5 = 40, \\ 60 - 3 &= 57, & \text{衿下} & 60 - 3 = 57, \end{aligned}$$

下二尺裁切。

裁方。先づ二丈七尺五寸の中より、五尺八寸切りて兩袖となし、次に一丈六尺切りて身頃とし、残りの五尺七寸を衿衿とす。

但衿中五寸、衿長三尺七寸、衿

ずれば一丈九尺七寸となる、これに衿下三寸を加ふれば二丈となる、之を五除すれば四尺となる、即身丈なり、これに衿下二尺を

加ふれば六尺を得、此内より衿下三寸を減ずれば、五尺七寸となる、之を衿衿地となすなり。

○常幅の布を以て、男服棒衿の裁方及積方。(第百九圖)

但袖丈一尺四寸五分、身丈三尺八寸五分、衿下四寸五分のときの用布を求むる法、

積方。袖丈の四倍と、身丈の六倍とを合せ、それより衿下の二倍を減ずれば用布を得るなり。

圖九百第

片衿	リ	エ	ゴ	ゴ	ソ	ソ
ミ	ク	ナ	ク	ナ	テ	テ

袖丈一尺四寸五分  
 衿下四寸五分  
 衿衿地六尺八寸  
 身丈三尺八寸五分  
 衿肩二寸三分  
 算

袖丈  $14,5 \times 4 = 58,$   
 $58, + 231, = 289,$   
 $289, - 9, = 280, \text{用布}$

衿下  $38,5 \times 6 = 231,$   
 $4,5 \times 2 = 9,$

○常幅長さ二丈七尺五寸の布を以て、衿先継ぎ棒衿女服の裁方及積方。(第百十圖)

圖十百第

片衿	リ	エ	ゴ	ゴ	ソ	ソ
ミ	ク	ナ	ク	ナ	テ	テ

袖丈一尺六寸  
 衿下五寸  
 衿衿地五尺七寸四分  
 身丈三尺八寸四分  
 衿肩二寸五分  
 算

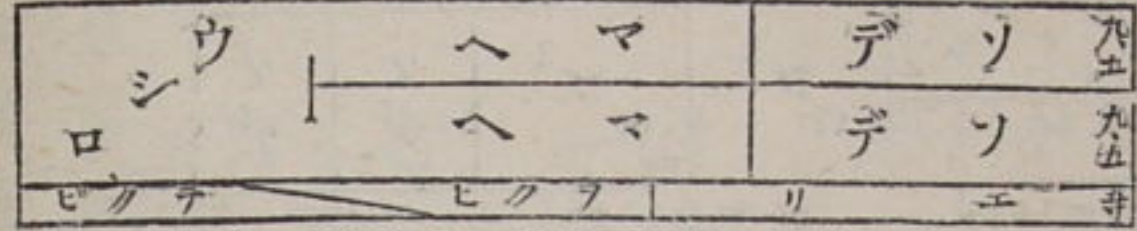
袖丈  $16, \times 4 = 64,$   
 $211, - 24, = 187,$   
 $187, \div 5 = 38,4 \text{ 身丈}$   
 $62,4 - 5, = 57,4 \text{ 衿衿地}$

衿下  $275, - 64, = 211,$   
 $187, + 5, = 192,$   
 $38,4 + 24, = 62,4$

但袖丈一尺六寸、衿下五寸。  
 裁方。二丈七尺五寸の中より六尺四寸切りて兩袖とし、次に一丈五尺三寸六分切りて身頃とし、残りの五尺七寸四分を半幅に割り、衿丈四尺八寸切り、其残りを下前の衿先に繼ぐなり。但女物の衿丈は身丈四尺以内の時は、普通四尺八寸と見積り、四尺以上の時は五尺と見積れ

ば足るなり。

圖一十百第



袖丈一尺  
袖幅九寸  
袖分四寸  
八寸  
衿丈三寸  
衿幅二寸  
衿肩二寸  
五寸  
衿幅五寸  
衿肩五寸  
三寸  
身丈四尺

算式

袖丈 15,  $\times 2 = 30,$  110,  $- 30, = 80,$   $80, \div 2 = 40,$  身丈

積方。袖丈一尺六寸の四倍、即六尺四寸を  
 總尺二丈七尺五寸の内より減ずれば残り  
 二丈一尺一寸となる、又此内より衿丈二尺  
 四寸を減ずれば、残り一丈八尺七寸となる、  
 これに衿下五寸を加ふれば、一丈九尺二寸  
 となる、之を五分すれば、三尺八寸四分を得、  
 即身丈なり、身丈に衿丈の半分即二尺四寸  
 を加ふれば、六尺二寸四分となる、此内より  
 衿下五寸を減じ、五尺七寸四分を得、是衿衿  
 地なり。

○幅二尺四寸長さ一丈一尺の布を以て、

男服裁方及積方。(第百十一圖)

但袖丈一尺五寸にして、身丈を求むる法。

積方。袖丈を二倍し、之を總尺より減じ、二にて除せば、身丈を得るなり。

裁方。一丈一尺の片端より、幅五寸に豎に斷ち、之を四尺八寸切りて衿となし、残りの六尺二寸を衿丈三尺七寸、裾下二尺五寸として、幅五分切り込み、圖の如く斜に裁ち、左右の衿となし、次に一尺九寸幅の物を三尺切りて兩袖となし、残りの八尺ある切を身頃とするなり。

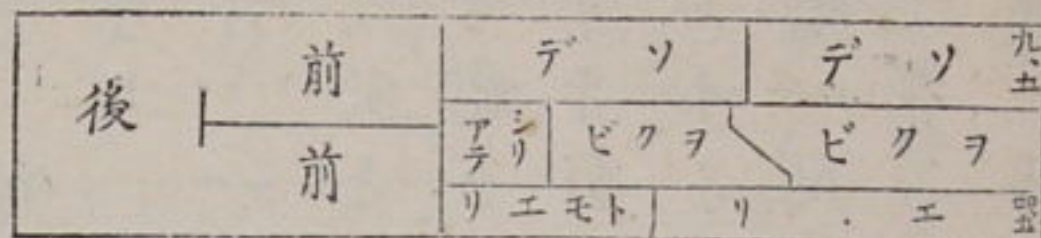
○幅一尺九寸のフランネルを以て、女服の裁方及積方。

但袖丈一尺六寸五分、身丈四尺、(第百十二圖)

積方。袖丈の四倍と、身丈の二倍とを合せば、用布を得るなり。



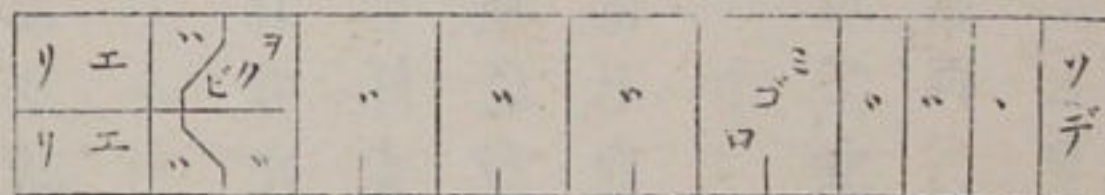
圖二十百第



袖丈一尺六寸五分  
衿丈五尺  
衿下二尺二寸  
衿丈三尺六寸  
身丈四尺  
衿肩二寸五分

算式  
袖丈  $16,5 \times 4 = 66,$   
身丈  $40, \times 2 = 80,$   
 $66, + 80, = 146,$  用布

圖三十百第



袖丈一尺六寸  
衿肩二寸五分  
身丈三尺九寸五分  
衿丈三尺六寸  
衿下二尺二寸  
衿丈四尺八寸

算式  
袖丈  $16, \times 8 = 128,$   
衿 衿下  $422, - 48, - 22, = 352,$   
衿下  $352, + 3,5 = 355,5$   
衿 衿下  $355,5 \div 9 = 39,5$  身丈  
衿下  $39,5 + 48, + 22, = 109,5$   
衿下  $109,5 - 3,5 = 106,$  衿衿地

○常幅五丈五尺の布を以て、鈎衿女服二枚の裁方及積方。

但袖丈一尺六寸、衿下二尺二寸、衿下三尺五分、(第百十三圖)

積方。袖丈の八倍、即ち一丈二尺八寸と、衿丈の四尺八寸及衿下の二尺二寸とを、總尺五丈五尺の中より減じて三丈五尺二寸を得、これに衿下の三寸五分を加へ、九にて除し、身丈三尺九寸五分を得、之に衿丈の四尺八寸と、衿下の二尺二寸とを加へ、一丈九寸五分を得、是より衿下の三寸五分を減ずれば、衿衿地を得るなり。

○男服綿入印の附方。

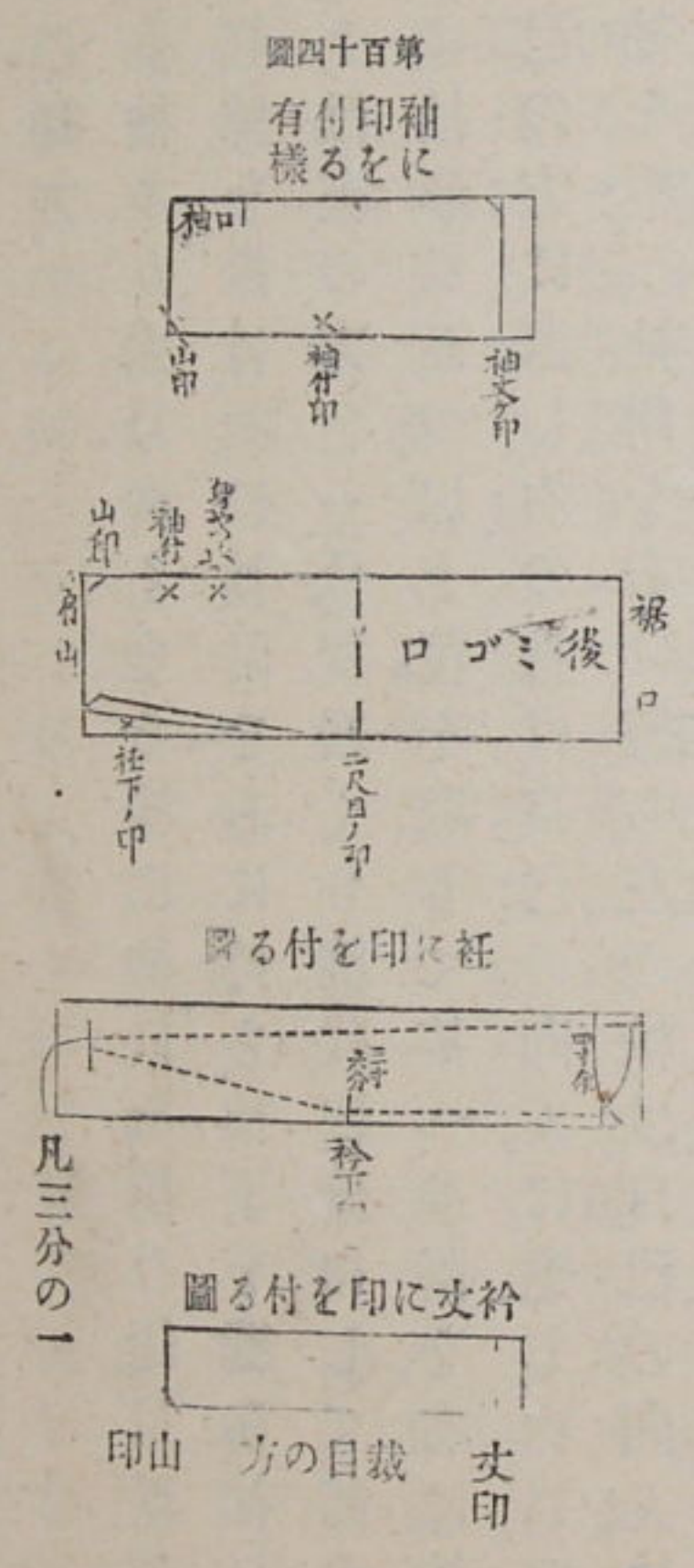
先づ表袖の表を中にして、二枚揃へ、二つに折り、袖下を右に袖口を自己の向ふにして下に置き、袖丈と袖口とは、寸法より一分長く印を付け、次に袖付印をなし、次に袖付の方のみ左の端に山印を付け、次に裏袖は表袖より一分短く印を付け、他は表袖と同じ、次に袖口布を縫付くる印をなし、次に身頃も表を中にして二枚揃へ、裾口を右に、後身頃を上になし、脊を自己の方にして下に置き、袖附の印と山印とを付け、衿下は後身頃を二枚除きて印を附

け、丈は出来上の寸法より五分長く印を付け、其餘の長き部分は、  
 中揚にす、揚の仕方は前身頃の衿肩を五分後の方にくりこし、袖  
 附より一寸下げて、四枚共に印を付け、二寸揚あるときは、其印よ  
 り又一寸下げて印を付け、(但下の印を山に  
なし縫ふなり)次に裏身頃も表を中  
 にし、二枚揃へ、二つに折り、裾口を右に、後身頃を上、脊を自己の  
 方にして下に置き、表より衽の二倍丈長く印を付け、(但寸法より長  
き時は、裾口よ  
り丈を計り、肩に  
於て揚をなす)次に袖附と山印と衽下との印を付け、次に表衽を  
 中表に二枚揃へ、裾口、裾先の方を五厘程切り下げ、次に裏衽を中  
 表に二枚揃へ、裾口を右に、裾下を自己の方にして下に置き、其上  
 に衽の二倍丈短く表衽を載せ、衽丈印を付け、裾先は裾下の方を  
 二分五厘、裾の方を二分位の縫代に印を付け、其印より衽幅と裾  
 下との印を付け、又合裾は、衽付の方にて下より五分狭く印を付  
 け、衽先は、それより又四分程狭く印を付けて、身頃に付くる時の

印を付け、次に衽丈の印より裾下の印迄、衿を付くる所の印を斜  
 に付け、又衿丈の寸法を度り、(衿丈の度り方は、裾下の印より、衽丈の印  
なり)次に裏表の衿を揃へ、丈を二つに折り、山の印を付け、又衿丈  
 印を附くるなり。(但單衣ならば寸法より、丈を八分  
長く裾下は五分長くするなり)又腰の曲りたる人  
 は、揚にて前の方を短くなる様に縫ひ、腹の肥えたる人は、揚にて  
 前下を

附くる  
 を宜し  
 とす。

方附の標服女



○男服綿入の縫方。

先づ袖裏に表袖より六分廣くなる様に袖口を掛け、縫目は袖口の方に返し、躰絲を掛け、次に袖附を右に持ち、袖下を縫ひ、袖口明を止めるときは、裏の方を一分程緩くし、縫代四分にして、能く糸止をなし、次に袖形に五つ以上稜ひらを取りて拵へ、袖附を右に持ち、左の袖は、自己の方に返し、右の袖は、自己の向ふに返し、次に表袖の裏を見て袖を縫ひ、袖附を右に持ち、左の袖は、自己の向ふに返し、右袖は自己の方に返し、引返して左の袖は、袖附の方より始め、口明の周圍に躰絲を掛け、右の袖は、口明より始め、袖附迄躰絲を掛け、次に並のものならば、袖幅九寸に印を付け、裏袖は、袖口の上の方を表袖より六分廣く印を付け、口明より下は、表の袖幅と同様に印を付け、人形袖ならば、人形を縫ひ置き、次に表の身頃を取

り、衿肩を右に持ち、脊を縫ひ、折目は自己の方に返し、後幅八寸肩幅八寸五分に印を付け、次に折を付け、次に後の揚は、袖附より一寸下に於て脊縫を能く合せ、待針を刺し、後幅の所のみ縫ひ、縫込は裾の方に返し、前の揚は、後の揚より又一寸下げ、折目は裾の方に返し、次に脇縫をなし、其折目は、前身頃の方に返し、次に袖附より、肩幅の印まで斜に折を付け、袖附は身頃と袖と共に淺く止め、身頃の方を折りて始と終り一寸程の間は淺く縫ひ、それより上は、一分位の縫代にして小針に縫ひ、折目は袖の方に返し、次に前幅六寸五分、抱六寸、其中間六寸二分五厘に印を付け、裾口は衿と身頃とを揃へ、待針を刺し、左右共裾より衿を付け、折目は衿の方に返し、次に脊縫より左右に衿を付け下げ、次に裏身頃を出し、衿肩を右に持ちて脊を縫ひ、折目は自己の向ふに返し、次に後幅八寸、肩幅八寸五分に印を付け、次に裏丈長き時は肩に揚をなし、其

折目は、後の方に返し、脇を縫ひ、又袖を付け、折目は身頃の方に返す、(但袖幅に縫込あるときは、之を一分の縫代に折て付く。)次に衿を付け、(但衿を附く頃の衿肩より浅く斜に折りて衿を縫附くるなり。)次に裏を自己の向ふに、表を自己の方に持ち、裾口の縫目を揃へ、待針を刺して、二分の縫代に裾を縫ひ合せ、裾を拵へ、五厘きせを掛け、表の方に折目を付け、裾の所は、針目を五分位に隠躰絲を掛け、次に裾口、及裾下に躰絲を掛け、双方の縫目を烙鏝にてのし付け、正しく夜着疊とすべし。但綿を入れる、前に衿幅印をなす。

○男服綿入の綿の入れ方。

裏を疊み置き、表の後を見て引き伸し、裾口を二三寸長く脊筋にて繼ぐ様に綿を置き、袖口と裾口とに襷綿をくるみ、次に襷の位を見、縫目を揃へて、綿の上に裏を引き伸し、次に裏の前身頃の方に綿を置き、次に袖に綿を入れ、次に前表の方より、袂に手を入れ、

袖口と袂とを共に持ちて引き返し、裾口も前の表の方より手を入れ、左の手にて脇縫を持ち、右の手にて、裾先を持ちて引返し、次に双方引合せ、疊み置くなり。但袖口綿は全體に綿を入れたる後にてもよし。

○男服綿入の拵方。

針目を一寸位になして、袖口に綿を縊り付け、口明を表と裏との間に、共に止め、針目を二三分位に拵け、終りは一寸程拵け返し、次に表と裏との間に、衿先を止め、一分中を縫ひ、折目は裏の方に返して、之を縫付け、次に裏と表との縫目を合せて、衿を綴ぢ付け、衿幅の印通りに折を付け、衿を拵け、次に襷の位を見て、襷綴ぢをなし、又脊と脇との縫目を裾口より一尺程綴ぢ、衿は衿先きの處迄綴ぢ、次に裾下を拵け、然る後正しく疊み置くなり。但襷綴ぢの針目は裏に一針置きに出して、前三針、後四針、表は此の倍になす。

なり。女服も亦同じ。

女服綿入通常の縫方は、八つ口を明け、衿を開き紵にするのみにして、其他は、男服縫方と同様なり。

○女服綿入やつ口の縫方。

先づ表と裏との袖を縫ひ、袖幅の印を附け、裏袖を自己の向ふに、表袖を自己の方に持ち、表を緩くし、裏袖の方に綿を當て共に縫ひ、引返し、縫目を正し、躰絲を掛け、次に身頃は、通常の如く縫ひ、表と裏との間に、身のやつ口を裏表共に止め、裏の方に綿を當て縫ひ附け、其絲を以て表袖及び裏袖を附くるなり。

○女服綿入の綿の入方。

綿を入れるには、衿肩より表と裏の間に手を入れて引返し、表身頃の後の裏を見て、綿を置き、又裾綿をくるみ、衿肩の所より、裾まで手を入れ、兩脇の襷の所を持ちて、引返し、次に袖及び前身頃に

綿を入れ、引返して、正しく引き合せ、疊み置くなり。

○女服綿入の紵方。

紵方は第一袖口、第二衿、第三襷綴、第四布綴、第五裾下とす。

○常幅長さ二丈八尺五寸の布を以て、男服裁方及積方。但袴衽。

(第百十五圖)

積方。袖丈の四倍を總尺より減じ、其残りに衽下の二倍を加へ、六にて除せば身丈を得、又身丈を二倍したるものより、衽下の二倍を減ずれば、衿衽地を得るなり。

○常幅二丈七尺八寸の布を以て、女服表地の裁方及積方。但鈎衽。

(第百十六圖)

積方。袖丈の四倍と裾下の二尺一寸とを總尺より減じ、其残りに衽下を加へ、五にて除せば身丈を得、身丈に裾下を加へ、それよ

○常幅の布を以て、裏地の裁方及積方。(第百十八圖)

圖六十百第

ソ テ	ソ テ	ロ ゴ ミ	ロ ゴ ミ	ソ テ	ソ テ
--------	--------	-------------	-------------	--------	--------

袖丈一尺  
六寸五分  
身丈三尺  
九寸五分  
衿丈二寸  
五分  
衿分二寸  
五分  
尺六寸  
一尺二寸  
一尺二寸  
五寸  
衿丈四寸  
五分  
八寸  
五寸  
八寸  
五分  
衿下  
四寸

算式

$$\begin{aligned} \text{袖丈} & 16, \times 4 = 64, \\ \text{衿下} & 214, - 21, = 193, \\ \text{身丈} & 197,5 \div 5 = 39,5 \\ \text{衿下} & 60,5 - 4,5 = 56, \text{衿下地} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{總丈} & 278, - 64, = 214, \\ \text{衿下} & 193, + 4,5 = 197,5 \\ \text{衿下} & 39,5 + 21, = 90,5 \end{aligned}$$

圖七十百第

ソ テ	ソ テ	ロ ゴ ミ	ロ ゴ ミ	ソ テ	ソ テ
--------	--------	-------------	-------------	--------	--------

袖丈一尺  
五寸五分  
身丈三尺  
九寸五分  
衿丈二寸  
五分  
衿分二寸  
五分  
尺六寸  
一尺二寸  
一尺二寸  
五寸  
衿丈四寸  
五分  
八寸  
五寸  
八寸  
五分  
衿下  
五寸

算式

$$\begin{aligned} \text{袖丈} & 15, \times 4 = 60, \\ \text{衿下} & 216,5 - 24, = 192,5 \\ \text{身丈} & 197,5 \div 5 = 39,5 \\ \text{衿下} & 63,5 - 5, = 58,5 \text{衿下地} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{總丈} & 276,5 - 60, = 216,5 \\ \text{衿下} & 192,5 + 5, = 197,5 \\ \text{衿下} & 39,5 + 24, = 63,5 \end{aligned}$$

圖五十百第

エ リ モ	ソ テ	ロ ゴ ミ	ロ ゴ ミ	ソ テ	ソ テ
-------------	--------	-------------	-------------	--------	--------

袖丈一尺  
四寸五分  
身丈三尺  
九寸三分  
衿丈二寸  
三分  
衿分二寸  
四分  
尺六寸  
九寸  
尺四寸  
八寸  
尺四寸  
五分  
八寸  
五分  
衿下  
五寸

算式

$$\begin{aligned} \text{袖丈} & 14,5 \times 4 = 58, \\ \text{衿下} & 4,5 \times 2 = 9, \\ & 236, \div 6 = 39,33 \text{餘} \\ & 78,66 - 9, = 69,166 \text{衿下地} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{總尺} & 285, - 58, = 227, \\ & 227, + 9, = 236, \\ & 39,33 \times 2 = 78,66 \end{aligned}$$

り衿下を減ずれば衿衿地を得るなり。  
○常幅長さ二丈七尺六寸五分の布を以て、衿先継ぎ女服衿の裁方及積方。(第百十七圖)  
積方。袖丈の四倍と衿丈二尺四寸を總尺より減じ、衿下五寸を加へ五にて除せば身丈を得るなり。  
又身丈に衿丈を加へ、衿下を減ずれば、衿衿地を得るなり。

積方。袖丈の四倍と、身丈の五倍と裾下の二尺二寸との三つを  
 合せ、衿下の四寸を減ずれば用布を得るなり。

圖八十百第

キ	エ	ゴ	ミ	ソ	テ
レ	リ	ロ	ロ	ソ	テ
ビ	ク	ク	ク		
ク	ク				

袖一尺五寸  
 衿肩二寸五分  
 身丈四尺  
 衿肩二寸  
 衿二寸  
 衿丈三尺  
 衿下四寸  
 衿下二寸  
 二寸

算式

$$\begin{aligned} \text{袖} & 15, \times 4 = 60, \\ \text{身丈} & 40, \times 5 = 200, \\ & 200, + 60, + 22, = 282, \\ & \text{衿下} \\ & 282, - 4, = 278, \text{用布} \end{aligned}$$

圖九十百第

ニ	ク	ゴ	ミ	ソ	テ
リ	ク	ロ	ロ	ソ	テ
	ク				
	ク				

袖丈一尺四寸五分  
 衿肩二寸三分  
 身丈三尺九寸  
 衿半幅五尺八寸  
 衿丈三尺四寸  
 衿五分二尺四寸

算式

$$\begin{aligned} \text{袖} & 14,5 \times 4 = 58, \\ \text{總尺} & 272,5 - 58, - 24, = 190,5 \\ & \text{衿丈} \\ & 190,5 + 4,5 = 195, \\ & 39, + 24, = 63, \\ & \text{衿丈} \end{aligned} \quad \begin{aligned} & 195, \div 5 = 39, \text{身丈} \\ & 63, - 4,5 = 58,5 \text{衿衿地} \\ & \text{衿下} \end{aligned}$$

○常幅、長さ二丈七尺二寸五分の布を以て、裏地裁方及積方。(第百

十九圖) 衿は山継ぎ

積方。袖丈の四倍と、衿丈の二尺四寸とを總尺より減じ、衿下の  
 四寸五分を加へ、五にて除せば身丈を得、身  
 丈に衿丈を加へ、衿下を減ずれば、衿衿地を  
 得るなり。

○常幅の布を以て裾廻の裁方及積方

圖十二百第

エ	ク	ナ	ス	ス	ス	ス
リ	ク	ナ	ソ	ソ	ソ	ソ
ク	ク					
ク	ク					

裾廻一尺一寸  
 同  
 同  
 同  
 同  
 同  
 衿二寸五分  
 五寸

算式

$$\begin{aligned} & 11, \times 4 = 44, \\ & 44, + 25, + 5, = 74, \\ & \text{衿先} \\ & \text{堅裾} \end{aligned}$$

○幅八寸五分長さ七尺の布を以て裾廻の裁方及積方

圖一十二百第

エ	ク	ナ	ス	ス	ス	ス
リ	ク	ナ	ソ	ソ	ソ	ソ
ク	ク					
ク	ク					

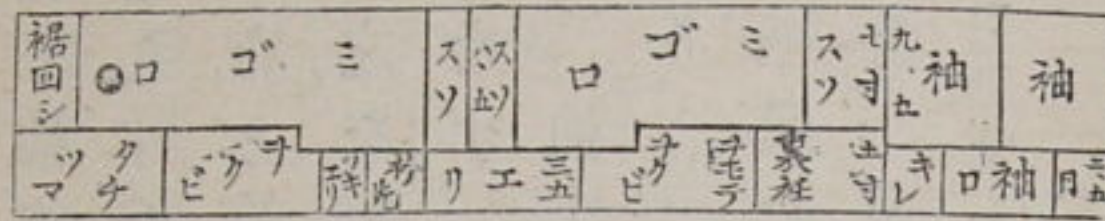
堅裾  
 10.  
 10.  
 10.  
 10.

算式

$$\begin{aligned} & 70, - 30, = 40, \\ & 40, \div 4 = 10, \\ & \text{衿先} \\ & \text{裾廻} \end{aligned}$$

○幅一尺三寸の布を以て、女服引返し（第百廿五圖）

圖 四 十 二 百 第

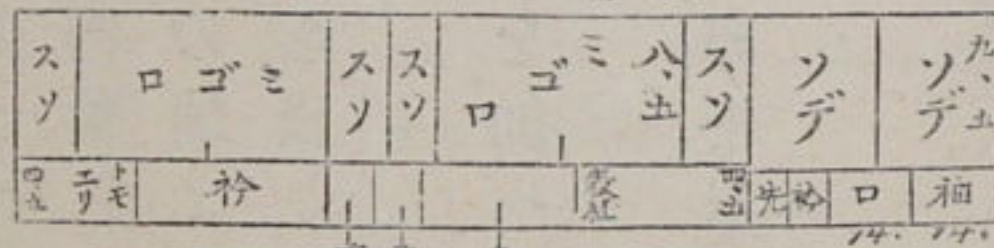


袖丈四尺一寸  
裾廻一尺三寸  
袖丈一尺七寸  
袖幅九寸五分  
袖口一尺五分  
襖口一尺五分  
裏衿丈二尺六寸  
表衿丈三尺七寸  
衿幅五寸五分  
衿先五寸五分

算式

$$\begin{aligned} \text{袖丈} & 17, \times 4 = 68, & 284, - 68, & = 216, \\ & & \text{裾} & \\ & 216, \div 4 = 54, & 54, - 13, & = 41, \\ & & \text{身丈} & \end{aligned}$$

圖 五 十 二 百 第



袖丈一尺八寸  
袖幅九寸五分  
衿幅四寸五分  
衿表長三尺八寸  
裏衿長二尺六寸  
衿丈五尺  
共衿一尺六寸  
身丈四尺二寸  
裾廻一尺四寸  
衿肩二寸五分

算式

$$\begin{aligned} \text{袖} & 18, + 14, + 42, & = 74, \\ \text{裾} & & \\ \text{身大} & & \\ 74, \times 4 & = 296, \text{用布} \end{aligned}$$

方圖及積方。但袖丈一尺七寸。裾廻の高一尺三寸。（第百廿四圖）

○幅一尺二寸、長さ二丈八尺四寸の布を以て、女服引返しの裁

圖 二 十 二 百 第

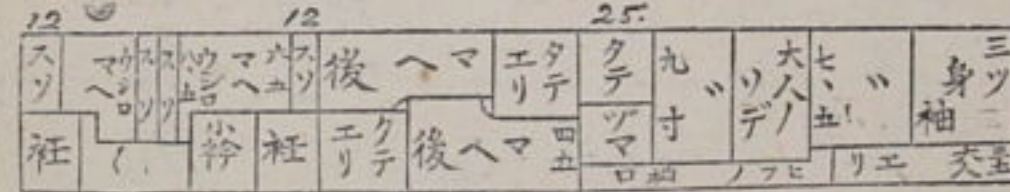


算式

$$60, \div 4 = 15, \text{裾廻}$$

物面片の寸八尺二丈四長寸一尺一幅○  
一布被身つ三と枚一垢無服女て以を  
方積及方合せ裁のと枚

圖 三 十 二 百 第



袖丈二枚共一尺五寸  
衿肩一寸八分  
前後丈二尺四寸  
前後丈二尺五寸  
五分丈六寸  
三丈六寸  
被布小八寸  
身丈四寸  
裾廻一尺二寸  
被布堅給裏

算式

$$\begin{aligned} \text{袖} & 15, \times 8 = 120, \\ \text{裾} & 12, + 40, = 52, & 52, \times 4 = 208, \\ & & \text{堅裾} & \\ & 428, - 208, - 120, - 25, & = 75, \text{被布の身頃切} \\ & \text{左右の前下} & \\ 75, - 3, & = 72, & 72, \div 3 = 24, \text{後丈} \\ 24, + 1,5 & = 25,5 \text{前丈} \end{aligned}$$

○幅一尺二寸五分、長さ六尺の布を以て、裾廻の裁方及積方。



但袖丈一尺八寸、身丈四尺二寸、裾廻一尺四寸。

裁方。袖丈一尺八寸の四倍即ち七尺二寸を總丈の内より切取り、幅九寸五分に豎に裁落して之を兩袖となし、幅の狭き布より袖口布と衿先を取り、次に残りの切の端より四寸五分豎に裁落して之を衿衽及豎裾共衿などになし、残りの廣き方を身頃と裾廻になす。

積方。袖丈と、裾廻の高さと、身丈とを加へて四倍せば、用布を得るなり。

○幅一尺七寸、長さ一丈五尺八寸の布を以て、女服表の裁方及積方。(第百廿六圖)

但袖丈一尺八寸五分。

裁方。一丈五尺八寸の中より七尺四寸切り、幅九寸豎に斷ちて兩袖となし、次に残りの切より、幅四寸五分切り、左右の衽となし

第百廿六圖

九寸	ソデ	ソデ	九寸
九寸	ソデ	ソデ	九寸
七寸	衿	衿	七寸
五寸	衿	衿	五寸
二寸	衿	衿	二寸
四寸	身	身	四寸
共	身	身	共
五寸	衿	衿	五寸
五寸	衿	衿	五寸
八寸	袖	袖	八寸
九寸	袖	袖	九寸
五寸	袖	袖	五寸

袖丈 八寸五分  
袖幅 九寸  
衽幅 四寸  
衽長 五寸  
身幅 五寸  
身長 四寸  
共衿 二寸  
身丈 四尺  
二寸  
衿丈 二寸  
五寸  
衽丈 五寸  
七寸

算式

$$\begin{aligned} 18,5 \times 4 &= 74, & 158, - 74, &= 84, \\ 84, \div 2 &= 42, \text{身丈} \end{aligned}$$

第百廿七圖

リ	エ	項	身	項	身	袖	袖
衽	衽						

袖丈 一尺七寸五分  
袖幅 一尺七寸五分  
衽丈 一尺七寸五分  
衽幅 一尺七寸五分  
身幅 一尺七寸五分  
身長 一尺七寸五分  
共衿 一尺七寸五分

算式

$$\begin{aligned} 17,5 \times 4 &= 70, & 275, - 70, - 48, &= 157, \\ 157, \div 4 &= 39,25 \text{身丈} \end{aligned}$$

其残りの幅三寸五分ある切を衿と共衿となし、大幅にて八尺四寸ある切を身頃となすなり。

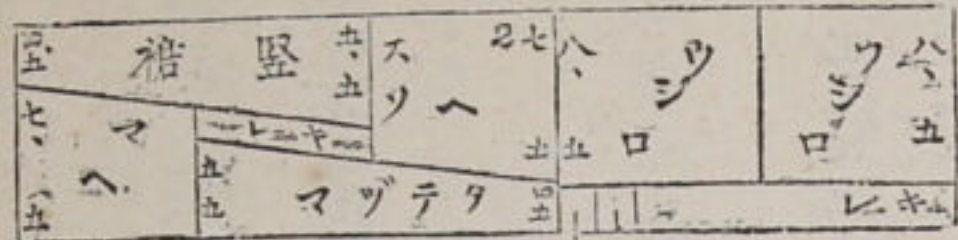
積方。袖丈を四倍し之を總尺より減じ、其残りを二にて除せば、身丈を得るなり。

○常幅長さ二丈七尺五寸の布を以て衽先なきなしの女服裁方及積方。(第百廿七圖)

○幅一尺三寸長さ五尺二寸を以て、裾廻車裁の裁方及積方。

裾て以を寸五尺六さ長寸二尺一幅○  
方積及方裁の高寸三尺一廻

圖 十 三 百 第

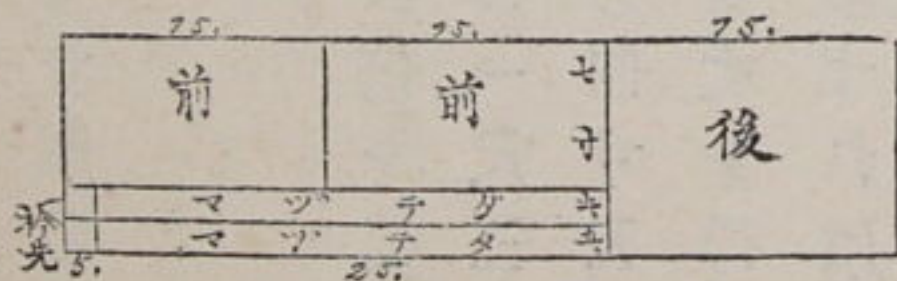


裾先  
二尺  
六寸

算 式  
 $65 \div 5 = 13$ , 裾廻高  
 $13 \times 2 = 26$ , 裾幅

縮幅大の寸五尺四さ長寸七尺一幅○  
方積及方裁の廻裾て以を緬

圖 一 十 三 百 第

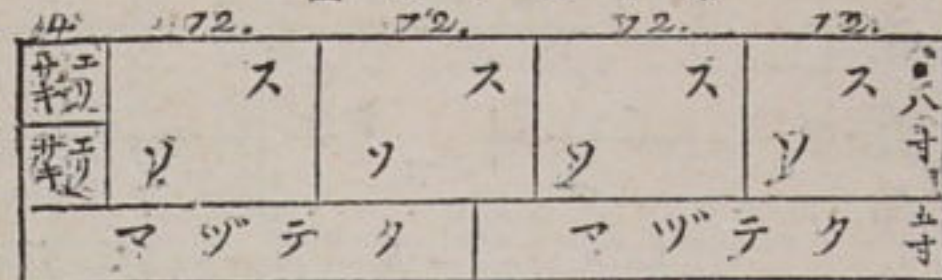


算 式  
 $45 \div 3 = 15$ , 裾高

○茶の湯帛紗の寸法。  
小、七寸五分四方、中、八寸五分四方、

大九寸五分四方の出来。

圖 八 十 二 百 第

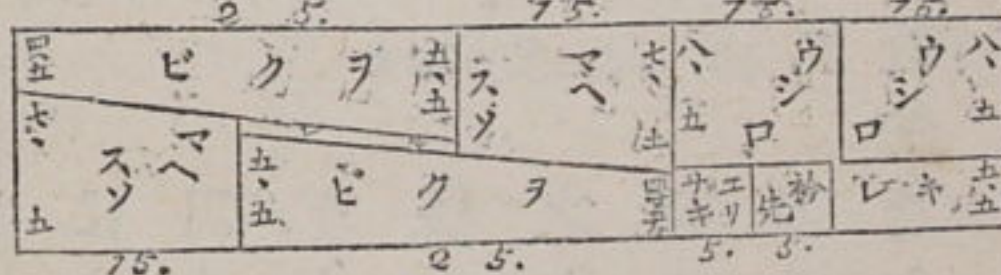


裾先  
四寸

算 式  
 $52 - 4 = 48$ ,  
 $48 \div 4 = 12$ , 裾の高さ

裁りギチて以をの尺七さ長寸二尺一幅○  
方積及方裁の廻裾

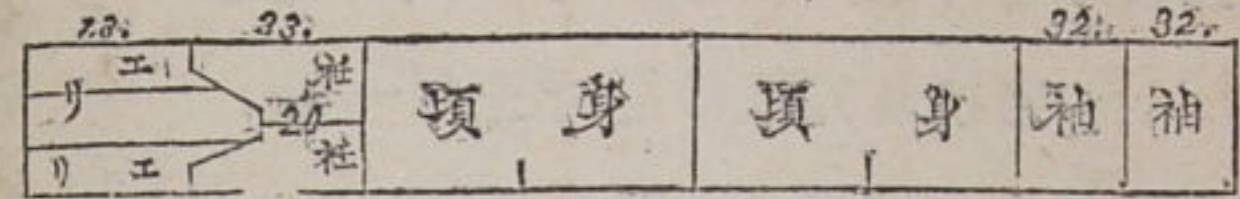
圖 九 十 二 百 第



裾先  
五寸

算 式  
 $70 - 25 = 45$ ,  
 $45 \div 3 = 15$ , 裾廻の高さ

圖二十三第



袖丈一尺六寸  
 袖 二寸五分  
 衿下二尺  
 衿は巾を三つ割にして縫ぐなり  
 衿丈三尺三寸  
 衿下二尺

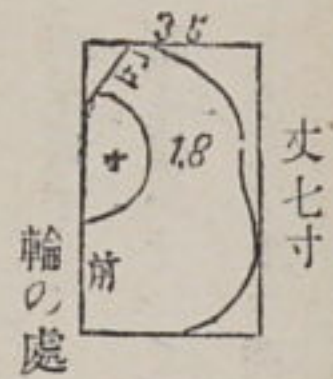
算 式

$$\begin{aligned} & 16, \times 4 = 64, & 260, - 64, = 196, \\ & 196, - 13, = 187, & 183, + 4,5 = 187,5 \\ & 187,5 \div 5 = 37,5 \text{ 身丈} & 37,5 - 4,5 = 33, \text{ 衿丈} \end{aligned}$$

○幅九寸五分、長さ二丈六尺の片面物を以て、女服の裁方及積方。  
 但衿縫き  
 積方。袖丈の四倍を二丈六尺より減じ、次に衿の一尺三寸を減じ、其残りに衿下の四寸五分を加へ、五にて除せば身丈を得、又身丈より四寸五分を減ずれば、衿丈を得るなり。

○西洋形涎懸の裁方。

圖三十三第



○西洋形涎懸の縫方。

縫方は表キャリコ(俗にキャラコと云ふ)に木綿の心を入れて麻の葉などに印を付けてミシンを懸け、次に裏を付けて廻りにテープを付け、後ろは釦一つ或は二つ付くるなり。

○簡單なる西洋形涎懸。

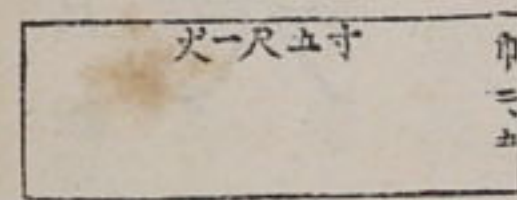
西洋形涎懸の簡單なるは幅五寸長さ二尺四寸のキャリコの裁目の處はミシン縫にし、次に八分許りの處を三四度小針に縫ひ、

之を八寸位に縫しめ、其處にテープを付て之を紐となすなり。  
 ○涎懸の地質。  
 地質はキヤリコ、木綿、メリンス、等を用ふ縮緬の類を用ふる事あれども之は涎懸としては不適當なり、又フランネルの類を用ふる事あり、此場合には表にキヤリコの類を付くるを良しとす。

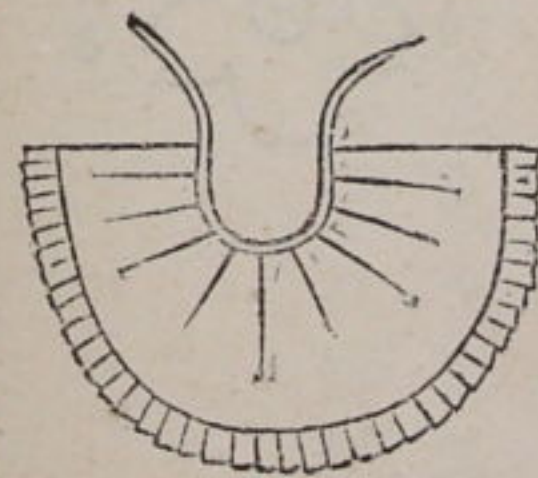
懸 涎 ○

裏表共幅二寸五分長さ一尺  
 五寸宛を要す  
 稜の布は幅一寸にて丈は一尺五寸の三倍但片稜  
 紐布は幅一寸五分、丈二尺

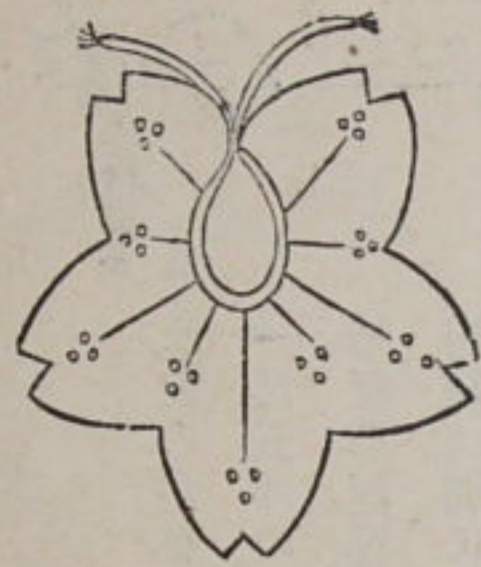
圖方裁 圖四十三百第



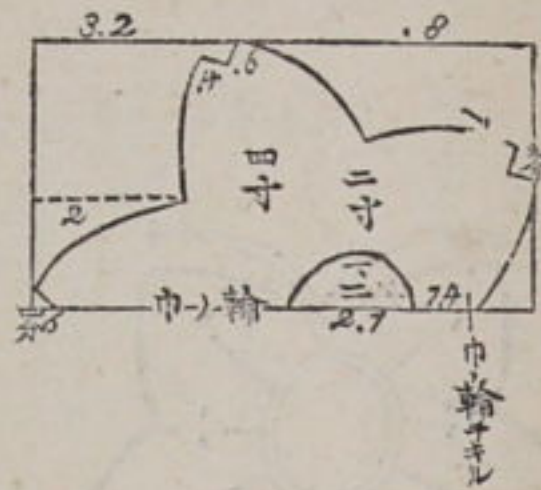
圖り上來出の圖四十三百第



圖り上來出の圖五十三百第

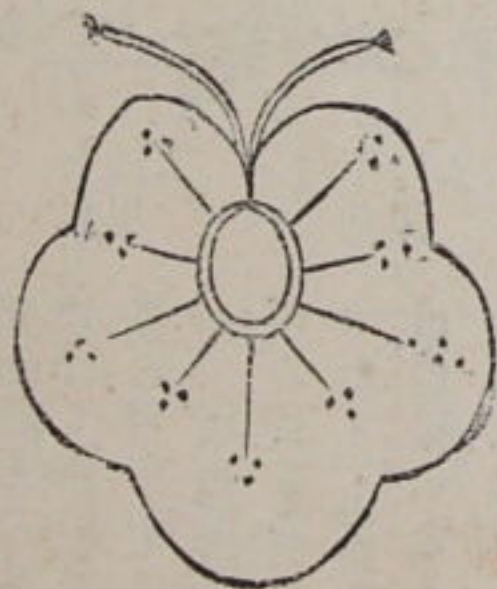


圖方裁 圖五十三百第

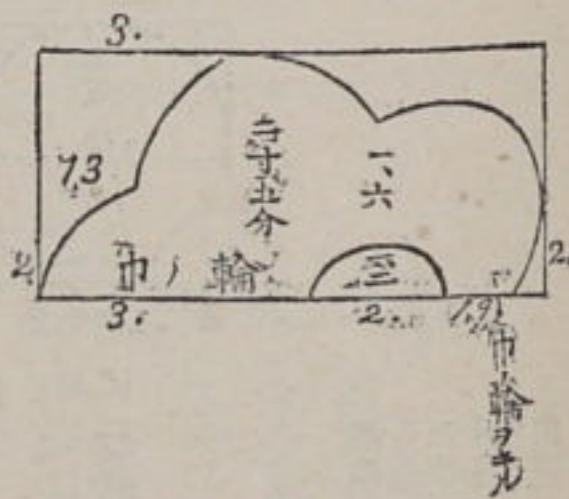


幅八寸長さ八寸の布  
 を以て櫻形涎懸表の  
 裁方  
 但裏の用布も表と  
 同じ  
 紐丈二尺、巾一寸五分

圖り上來出の圖六十三百第

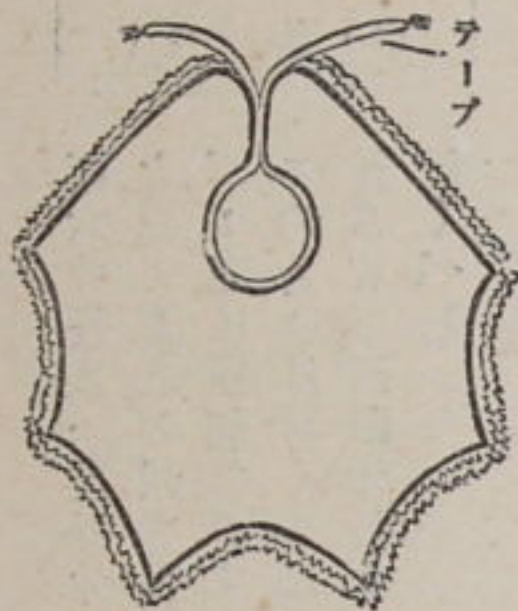


圖方裁 圖六十三百第

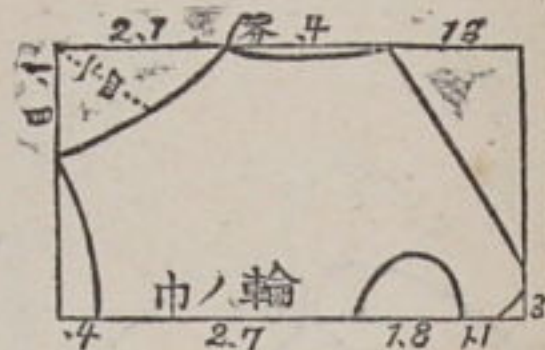


表裏の用布七寸長さ  
 一尺五寸の幅を以て  
 櫻形涎懸の縫方  
 但紐幅一寸五分丈二  
 尺を要す。

圖り上來出の圖九十三百第

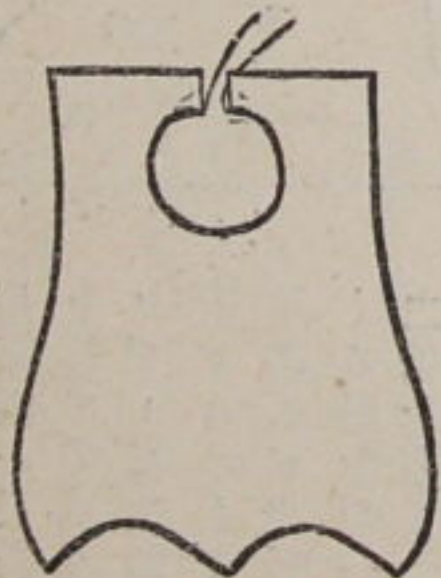


圖方裁 圖九十三百第

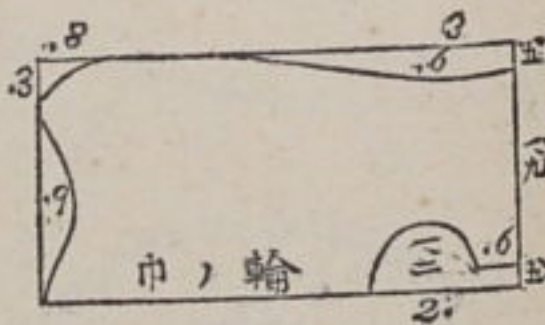


幅六寸長さ一尺五寸  
にて裏表の裁方  
テープ丈二尺を要す

圖り上來出の圖十四百第

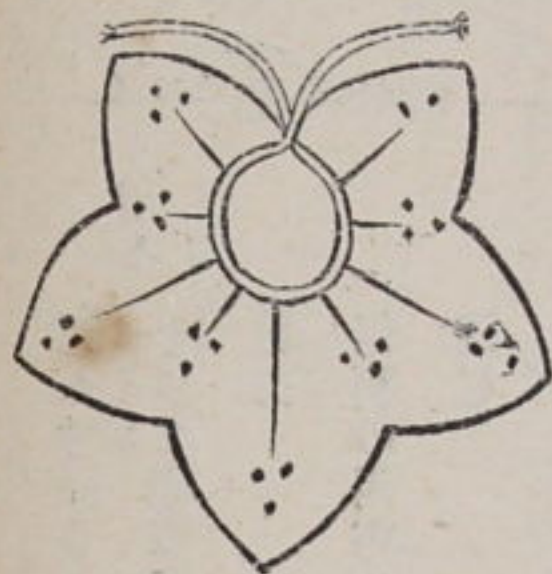


圖方裁 圖十四百第

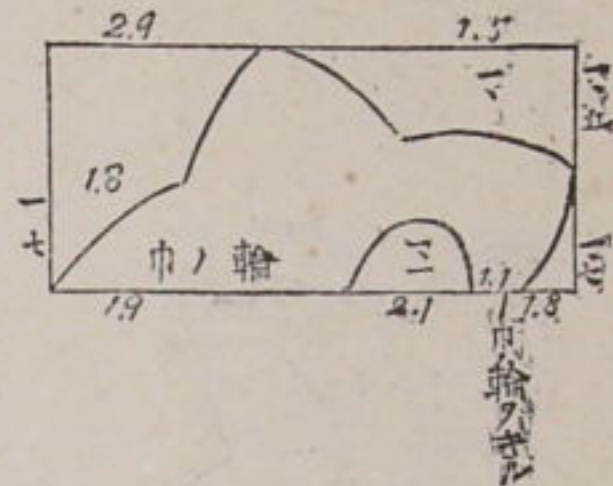


裏表共幅六寸丈六寸五分  
宛を要す紐はテープを用  
ふ丈は二尺

圖り上來出の圖七十三百第

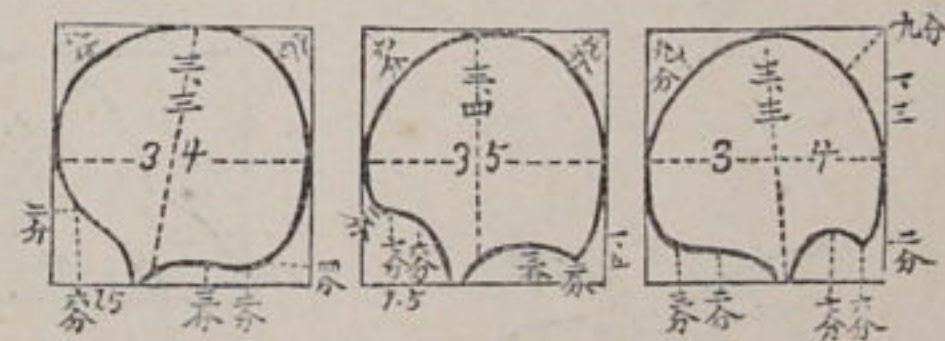


圖方裁 圖七十三百第

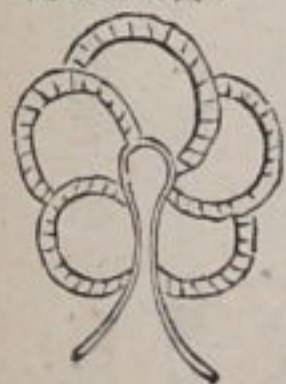


裏表の用布幅八寸丈  
一尺五寸の布を以て  
桔梗形涎懸の縫方。  
但紐は別に巾一寸五  
分長さ二尺を要す。

圖方裁 圖八十三百第



圖八十三百第  
圖り上來出の



中央に用ふる故  
に三枚を要す

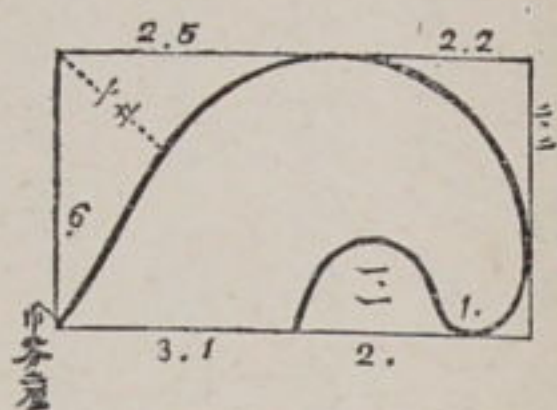
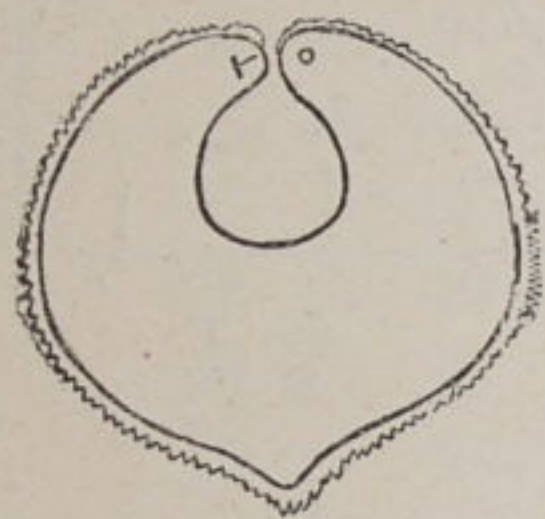
ふに下  
用前

ふに上  
用前

用布幅七寸丈一尺三  
寸にて崩梅の裁方。  
裏の用布も表と同  
一、稜布は附くる場  
所の長さの三倍を五  
本要す(但片稜)  
巾着稜のときは二倍  
半にてよし

圖り上來出の圖三十四百第

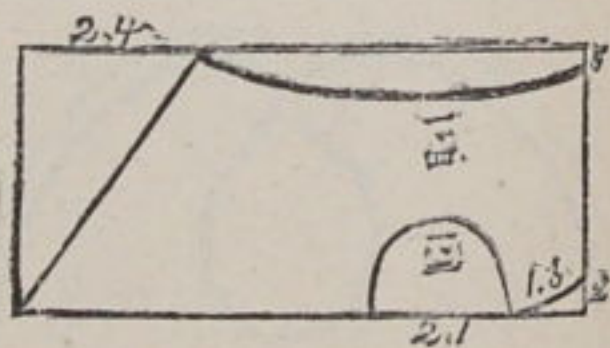
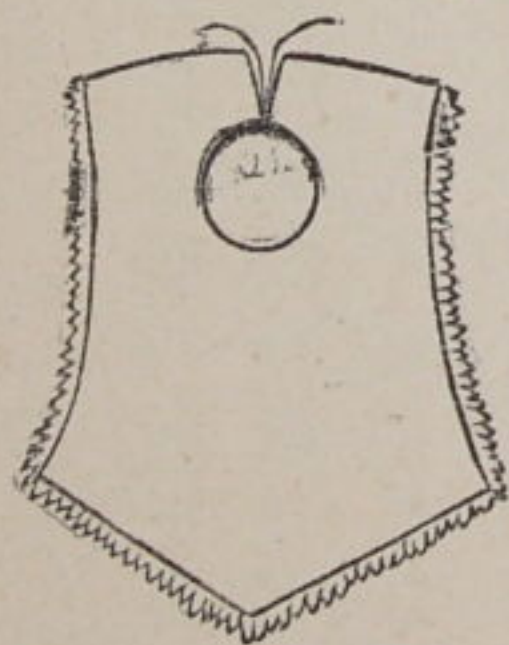
圖方裁 圖三十四百第



裏表の用布はギャザ  
一布共にて常幅丈一  
尺五寸を要す  
ギャザ一用布は第百  
四十二圖に同じ

圖り上來出の圖四十四百第

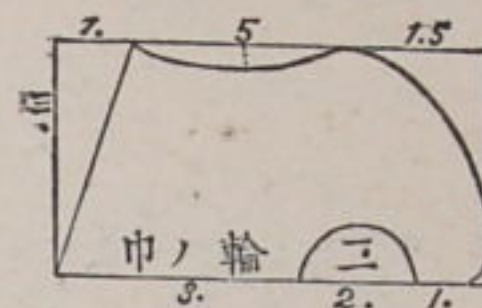
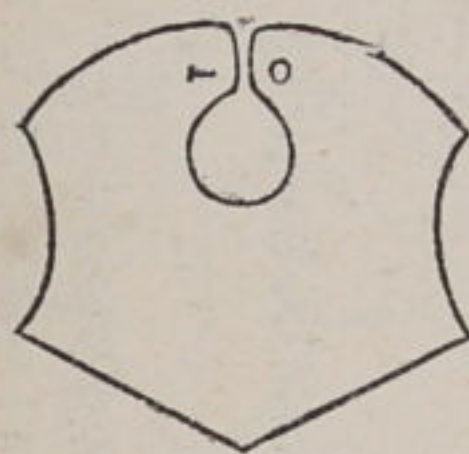
圖方裁 圖四十四百第



幅一尺長さ一尺五寸  
の布を以て裏表の裁  
方但ギャザ一布共  
紐はテープにて長サ  
一尺九寸を要す  
ギャザ一幅一寸五分  
丈一尺五寸を二本

圖り上來出の圖一十四百第

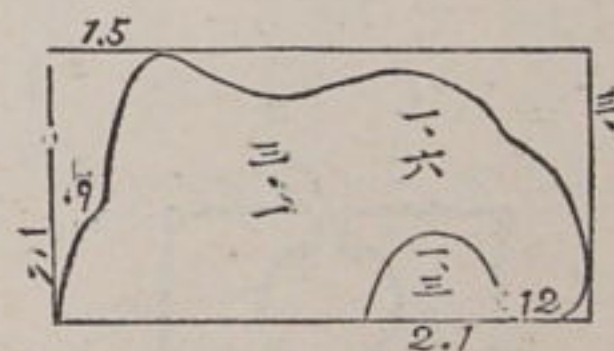
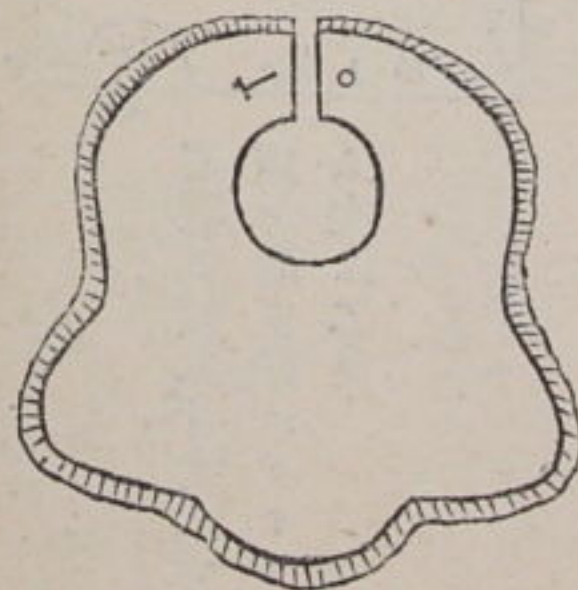
圖方裁 圖一十四百第



幅六寸長さ一尺五寸の布  
を以て裏表の裁方但ギャ  
ザ一布は別切を要すレ  
スのときは付くる場所の  
長さより三四寸長くなし  
置くべし

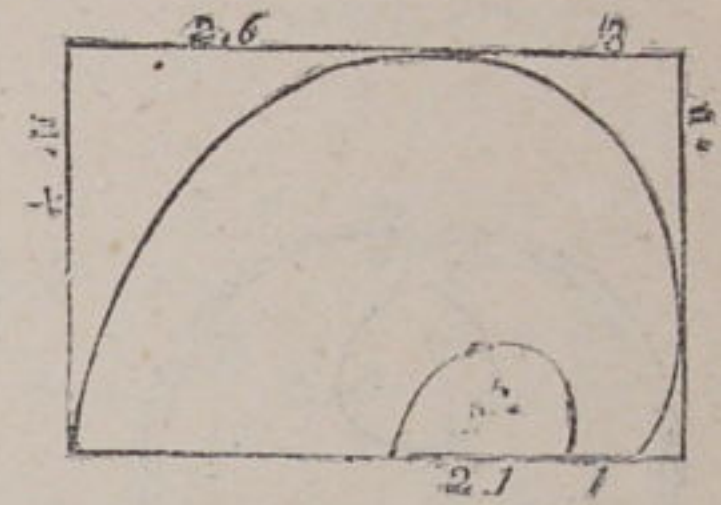
圖り上來出の圖二十四百第

圖方裁 圖二十四百第



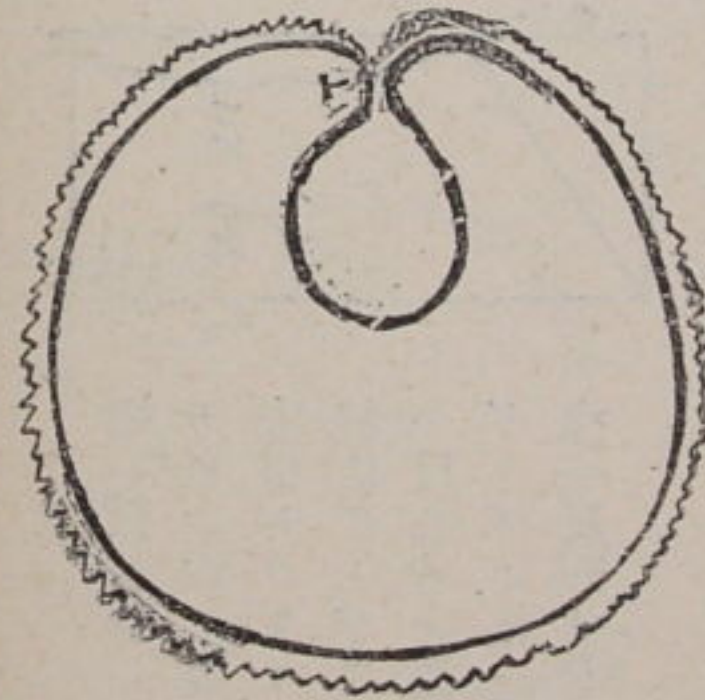
用布幅一尺長さ二尺  
を要す但裏表にてギ  
ャザ一布は共布にて  
附くるなりギャザ一  
用布はギャザ一をつ  
くる場所の一倍半か  
二倍を要す

圖方裁 圖五十四百第



月形涎懸  
用布、常幅一尺五寸。

圖り上來出の圖五十四百第



○日本形涎懸よたれの縫方。

但櫻形、梅形、桔梗形。

第一に表の布を取り、輪縫、又はミシン縫にて飾縫をなし其先に  
第百五十三圖の如き伊保縫いほをなし、次に心の布を表布の裏に綴  
付け、次に裏を合せて廻りを三枚共に縫ひ、引返して廻りに、表よ  
りミシン縫或は輪縫をなす、(但地質の厚き布ならば、心を入るゝ  
必要なし)次に紐丈の真中と首廻りの真中とを揃へ、紐を表に縫  
付け、中に心を入れ、五分位の太さになして拵け、紐の兩端に稜ひだを  
三つ或は五つ取り、絹絲にて止め、其絲を長さ五分或は一吋位に  
切り置くなり。

但紐丈一尺八寸より二尺位迄にして幅は五六分。

○西洋形涎懸の縫方。

第一にギャザーすべき布を出し、之を身の廻りだけに縫ひ縮め、表の裏に心の布を綴付け、裏と表との間にギャザーしたる切を挟みて之を四つ縫になし、次に引返して表よりミシン縫をなし、首の處にもミシン縫をなし、後ろの中央にて穴を明くるか或はチの布を付くるなり。

又身の廻りには飾りにギャザーしたる布か、稜か或はレースを附くる等各自の随意とす。

穴の明け方は右後ろに、横に一つ明け、左後ろに釦を附くると、左に穴を明け、右に釦を附くるとあり。

チを附くるとき、チの折方は羽織のチと同じ、チの丈は二寸裁切、幅は五分位とす。

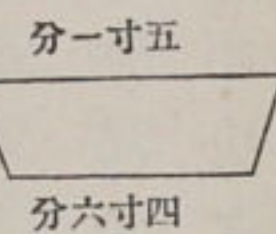
圖六十四百第

大黒帽子の子の日の覆



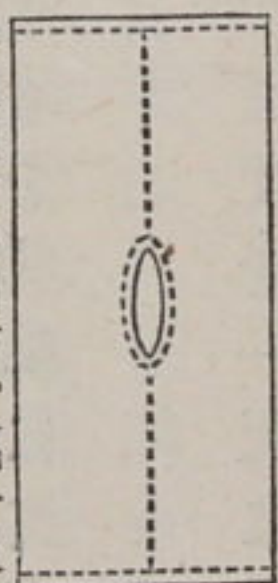
頭の布

縫方は總て一分縫代にすべし



縁の布

此切一つに付四枚



早通頭布出来上り圖

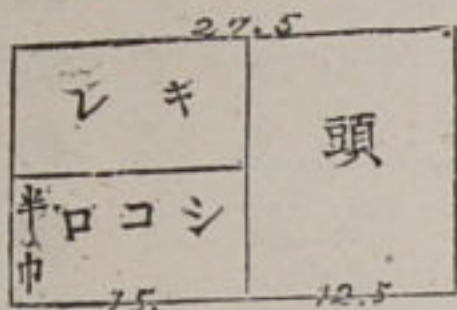
早通頭巾の用布、幅一尺五六寸長さ四尺、真中に八寸の口を明ける。

注意 首の廻りに梅形等の如く、紐又はテープを附くるもよし。

○二三歳の雪帽子の裁方。

但裏の縫方も同様なり。

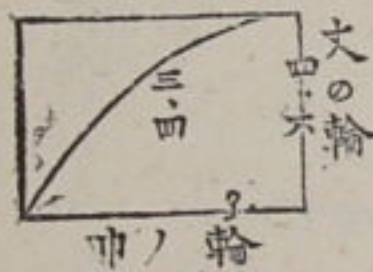
圖七十四百第



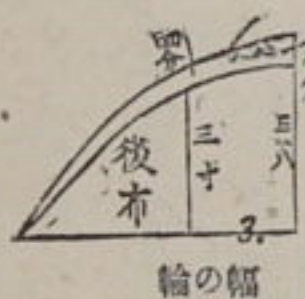
常巾

常幅長さ一尺二寸五分の頭布を丈を二つにし次に幅を二つ折りにして裁

方裁の頭

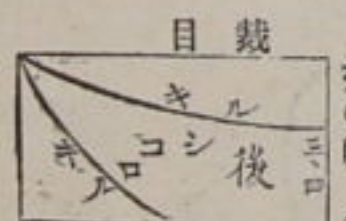


前



此線上二枚きる

輪の幅



丈の輪

半幅長さ一尺五寸の布にて後ろしころの裁方



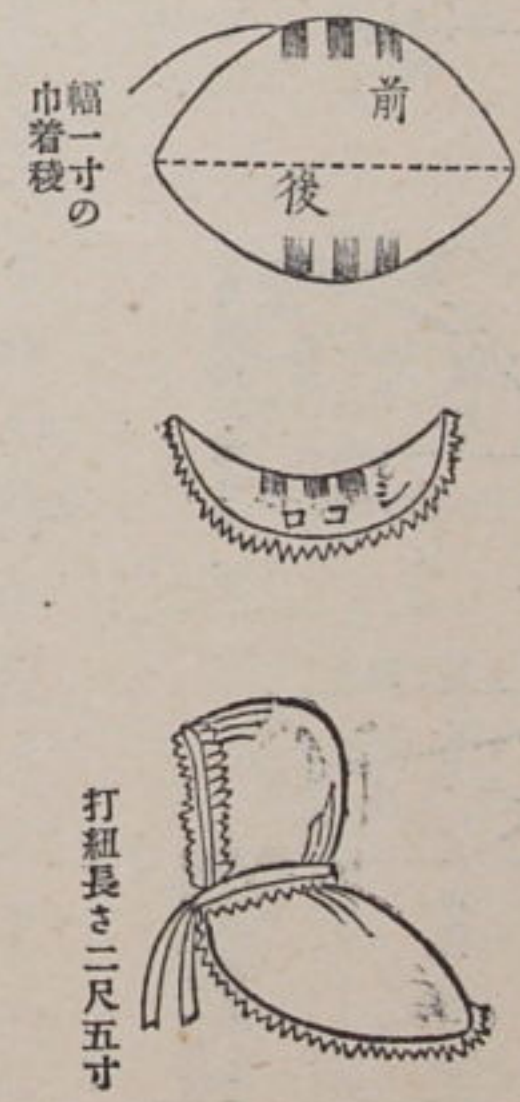
○飾布の裁方。

第百四十八圖



○雪帽子の縫方。

頭の裏表の間に綿を薄く入れ、其廻りを躰糸にて縫ひ置き、前後の中央に幅一寸の巾着稜を取り、其左右にも幅一寸の巾着稜を一つ宛取りて、布幅の中央より中央までを一尺に縮め、稜の先の方を揃へて、躰糸にて縫ひ置くなり、次に飾布三尺を二本継ぎ合



せ、縫目を左右に開き、次に左右の端を縫ひ、丈三尺になる様に片返しになして幅七分の片稜を取り、次に後ろシコロの裏と表とを中表に重ね、其中に外の方の丸くなりし所に、長さ三尺によせたる稜を挟みて返し針に縫ふ、次に綿を入れ、引返して表を出し、内の方に丸くなりし方を裏表共に躰糸にて縫ひ置き、之も頭の方と同様に幅一寸の稜を三つ取りて丈を一尺になすなり、次に前の先になる飾布の稜の取り方は、丈三尺の布を別々に左右の端を縫ひ、引返して表を出し、二本向合ひになしたる時、稜の向きが同様になる様になして幅七分の片稜を取り、丈を一尺になし、之を前の頭の方に置き、稜にて頭の前方を挟み、裏頭の方の稜布の上に幅五分の縁布を置き、四枚共に返縫になし、折は頭の表の方に返し、縁幅はなるべく細くなし、頭の表の方に紺付くるな

り。次に残り三尺の稜布も左右の端を縫ひ、シコロに付けし稜の向と同様になして幅七分の片稜を取り、丈を一尺となす、頭の後ろとシコロの飾の付かぬ所を合せ、縫目を表に出し置き、其所にてシコロの表の上に稜布を置き、其上に幅五分の縁布を置き、前頭の縁布を縫付け、而して今重ねたる四枚共に返し針にして縫ひ、折は頭の方に折り返し、縁の左右を折返して縫代に縫付け置き、此所は縫代を縁の方に折り、此所に打紐を通して、縁幅を出來得る限り細くして、稜布の縫目の所に細く紵付くるなり。

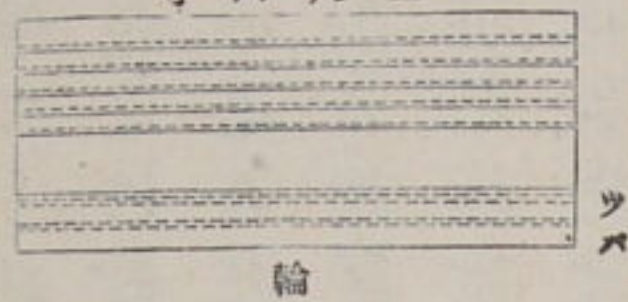
○小兒の夏帽子の裁方。

地質は重に絹寒冷紗を用ふ。

幅一尺二寸、長さ二尺八寸と、共布にて幅四寸、長さ一尺四寸二分

の裏布と、別に飾に用ふるリボン五分幅長さ三尺と、レース二尺八寸と、護謨の細き紐八寸と、籐を少しく要す。(但二三歳の小兒用)

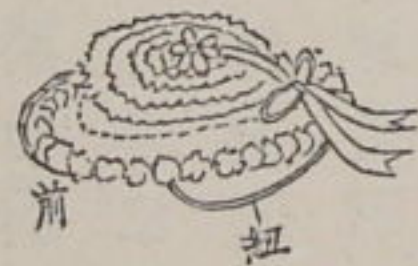
第四百九十九圖  
二尺八寸



一尺四分二寸分  
共布裏

此長さは直径の三倍に二分の餘裕を要す

出來上り圖



○小兒の夏帽子の縫方。

第一に幅一尺二寸、長さ二尺八寸の布を、始め幅二寸四分裏に折返し、其端をグシ縫になし、それより籐を入れる、だけ間を置きて又縫ひ、其内に籐を入れ、次に幅二寸四分の中央を端より端まで

縫ひ、又一分間を置きて今一度縫ひ、次に布の一枚になり居る端、即頭の中央になる所より、幅一寸三分入りし所を山になし、揃んで二分の縫代になし、絲をつながぬ様になして端より端まで縫ひ、次に幅四分づつ、間を置きて右の如くに五段縫ひ、之を縮むだけ、両端より絲を引き、残らず同様に引締め、更に之を伸し置くなり、但之は飾になす段なり、次に籐を入れし所を引しめて、子供の頭の廻りだけ、凡内側を直径三寸五分か四寸位になし、籐を一寸程重ね、其所を絲にて丈夫に巻き置き、次に外側即幅二寸四分の中央の籐はツバを平に下に置き、能く引合せて引しめ、藤を二本共に絲にて卷付け置き、次に布の丈を縫合せ折は片返しになし、籐の繼目は布の縫ひ合せ目より内に入れ置き、次に頭の眞中になる方を幅一寸一分づゝの巾着稜に折り廻し、全體に五つ取

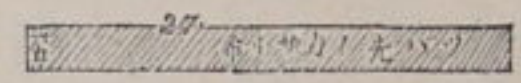
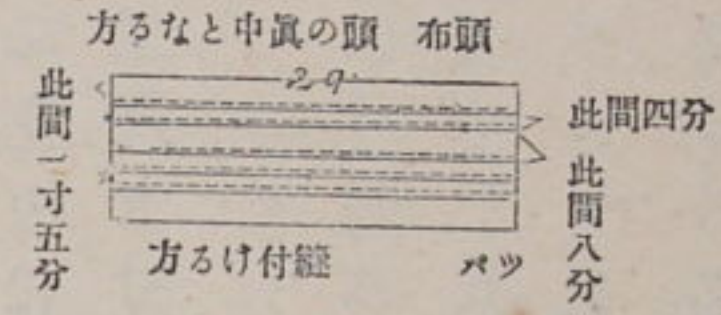
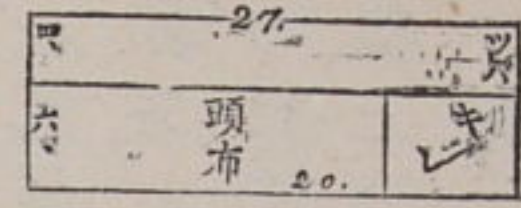
り、裏にて縫締め置き、次にリボンを結びて頭の眞中に付け、其残りを経て後ろに下げて飾となし、次に護謨紐丈八寸を、顎にかゝる様に内側の中央にて両端に縫付け置き、次に裏布を丈と丈とを縫合せて輪となし、縫目は片返しになし、次に一方の端は丈を五つに折り、其折目々々に針を通して絲止をなし、(裏より)他の一方の端を折りて頭の廻りにまつり附くるなり。

○幅一尺長さ二尺七寸の布にて二三歳の小兒の夏帽子裁方圖及縫方。

但別布にて幅四寸、長さは頭の直径の三倍と外に二分を要す、リボン幅三四分、長さ三尺と、護謨紐長さ八寸とを要す。

縫方。幅二寸、長さ二尺七寸の布を、頭の眞中になる方より幅一寸五分入りたる所を揃んで一分縫代にしてグシ縫をなし、次に

圖十五百第



様有るたり上來出



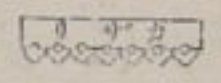
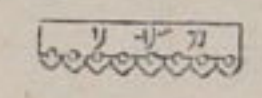
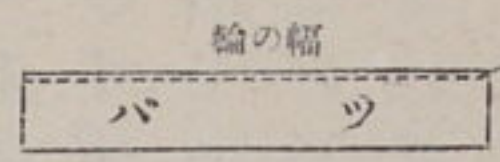
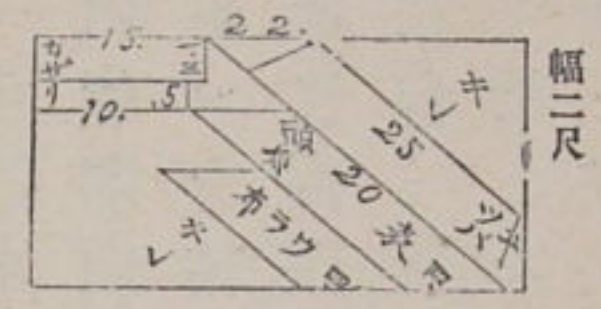
四分入りたる所を揃んで、再び一分縫代にして、前の通りに縫ひ、次に之より幅八分入りたる所を一分縫代にして縫ひ、次に始二段縫ひたる絲を少し引締めて飾となし、布の兩端を縫合せて輪となし置き、次につば先きになる布即ち幅一寸五分、長さ二尺七寸の布を幅二つに折り、此裁目の方を、つば布にて挟みて四縫に

なし、此兩布幅の中間をグシ縫にし、一分間を置きて縫ひ、此中に簾を入るゝなり、次に縫目の方を縫締めて、頭の廻りの寸法、即直徑三寸四五分になして絲を止め、ツバ布を下に平に置きて、簾を入れ、一寸位重なる様にして能く絲にて巻き、布の兩端を縫合せ、次に内側即頭の寸法丈に縮めたる處と頭布とを縫合せ置き、次にリボンを結びて頭の眞中に付け、其の餘を後方に下げて飾となし、次に護謨紐の長さ八寸を顎にかゝる様に、内側の中央にて兩端に能く縫付け、次に共布にて丈九寸、幅四寸を取り、兩端を縫合せて輪となし、次に花形のごとく稜を取りて絲止めをなし、次に他の一方を縫代だけ端を折りて、頭の廻りにまつり附くるなり。

○幅二尺、長さ二尺二寸の布を以て、一二歳の小兒の夏帽子の裁方及縫方。

別に裏布、幅四寸、長さ頭廻寸法の三倍に二分を餘裕を加へたるものと幅五分、長さ二尺五寸のリボンとレース二尺五寸ど、護謨紐八寸とを要す。

圖一十五百第



幅の輪の所に藤を入れ一分縫代にしてミシン縫ひになす

両端を互交に稜をとる稜数一定せず

圖り上來出



前 紐 後

縫方。第一にツバ布をとり、幅を二つに折り、此輪の所に藤を入れてミシン縫になす、次に頭の内側になる方即、裁目の所を片稜に深さ三分位にて頭の直径の三分の一に寄せ置き、次に頭布の

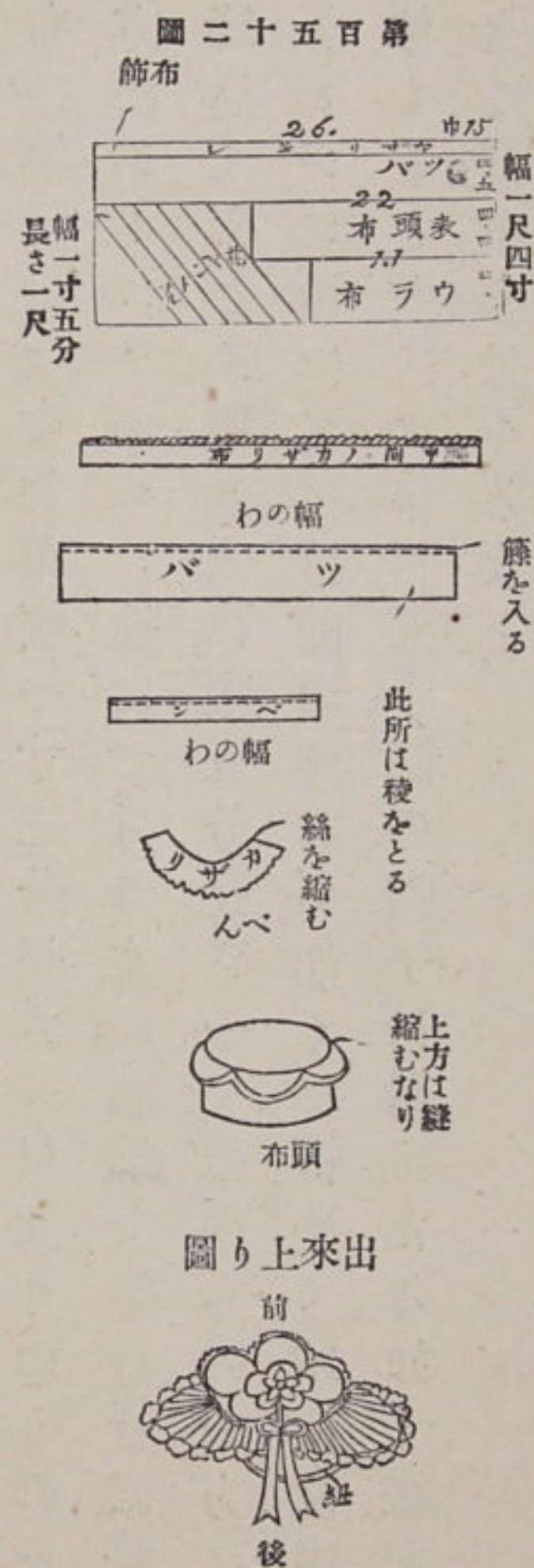
丈の端を縫合せ、折は片返しになし、頭の中央になる方を稜の深さ三分位にして取り、綫糸にて押へ置き、次に他の一方を互交に稜を取り、ツバ布の稜も互交に稜をとりて頭の寸法だけにし、ツバ布に縫付け、次に飾布幅一寸三分、長さ一尺五寸のものをとり、一方にレースをミシン縫にて付け、丈の両端を縫合せ、裁目の方を縫ひて引しめ置き、次に幅五分、長さ一尺の飾布の一方にレースをミシン縫にて付け、前の飾布の如く縫締めて、頭の真中に飾を付くるなり、次に第百五十圖の帽子に附けたる如く、紐を縫付け、次に裏布を付くるなり。

○幅一尺四寸、長二尺六寸の布を以て、梅形夏帽子表の裁方及

縫方。

別にリボン、幅五分、長さ二尺と、二三分位のもの長さ三尺と、レ

ス二尺七寸位と、護謨紐丈八寸とを要す、裏布は幅四寸、長さ頭の直径の三倍と二分の餘裕を加へたるだけを用ふ。但此裏は表用布の中より取るなり。

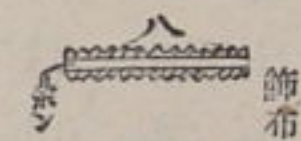
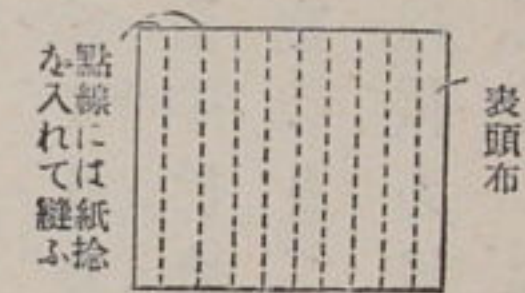
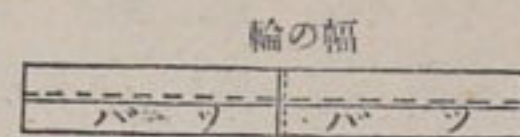
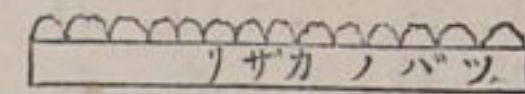
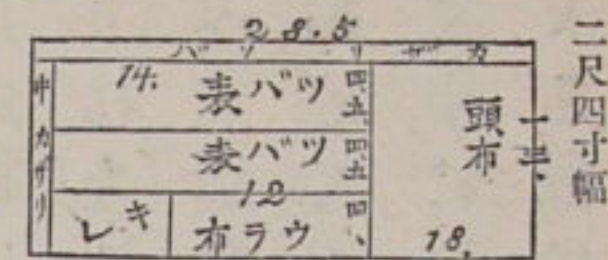


縫方。先づ幅一寸五分、長さ二尺六寸の飾布を取り、一方にレースをミシン縫にて縫付け、丈を縫ひ合せ、次に幅四寸五分、長さ二尺六寸のツバ布を取り、丈と丈とを縫合せ、幅を二つに折り、此所

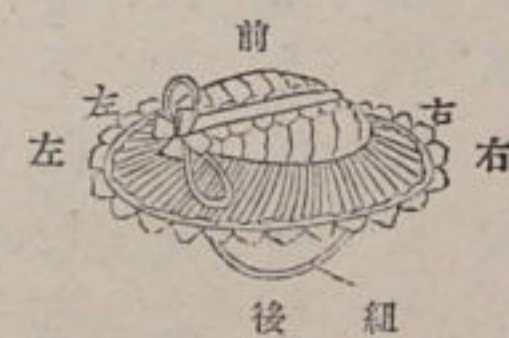
に簾を入れて縮め置き、次に表頭幅四寸、長さ二尺二寸の布は丈を縫ひ合せて輪となし、次に花瓣布幅一寸五分、長さ一尺の斜の布を幅二つ折にして、裁目の方をグシ縫にし、これを表頭布幅の中央迄丸くなる様にして、躰糸にてをさへ、此通り五つ付くるなり、次に此形にリボンの幅挟き方を型に倣ひて縫ひ付け、次に頭の廻りになる方を縫ひ縮めて、此布とツバ布を下にし、飾布を中に挟みて縫付け、次に頭の真中になる裁目の方をよく二本糸にて縫縮めて正しく花の形をとりて、糸止をなし、リボンを結び、頭の真中に縫ひ付け、其餘は後方にたれ、細き護謨紐を八寸程顎にかゝる様、頭布の内側にて能く紵付け、次に裏布の丈と丈とを縫合せ、一方の端を丈五つに折り、其折目々に針を通して止め、他の一方の端を折りてマツリ付くるなり。

○幅二尺長さ二尺八寸五分の布を以て、小兒の夏帽子の裁方  
及縫方。

圖三十五百第



圖り上來出



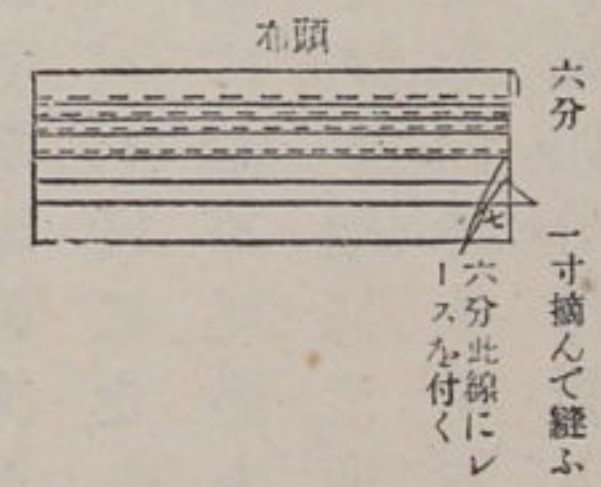
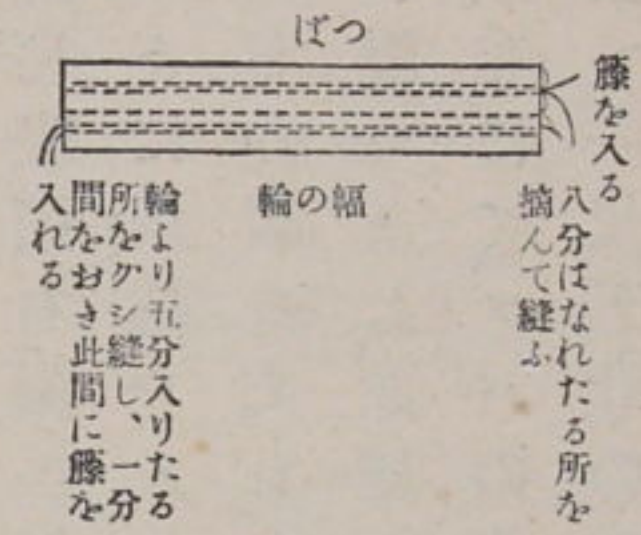
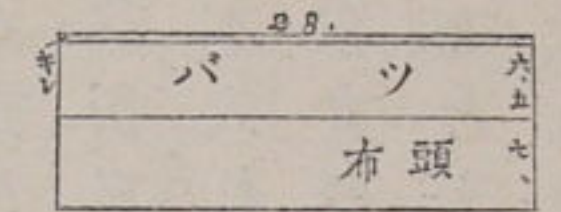
縫方。幅一寸、長さ二尺八寸五分の飾布にレースをミシン縫にて縫付け、丈と丈とを縫ひ合せて輪となし、裁目の方を頭の寸法に縫締め置き、次にツバ布は二布ゆる縫合せて縫目は兩方に割り、幅を二つに折りて此幅の中央に籐を入るるだけ間を置きて、

二度縫ひ、此中に籐を入れ、ツバを平に下に置き、よく引合をなし、籐を一寸程重なる様にして、二本糸にて巻き、次に丈と丈とを縫合せて片返しになし、次に裁目の方を縫締て頭の廻りの寸法に縫締め置き、次に表頭布幅一尺三寸を幅の方を九つ(或は十一)に折り、其折目々々に紙捻こよりを入れて、グシ縫になし、如斯にして紙捻を九本入れ、頭布の幅も丈も七寸に縮めて糸を止め、此隅すみを一寸五分宛丸形に繰り落し、此廻りをグシ縫にて頭の寸法に縫締め、ツバ布と表頭布にて、ツバの飾布を間に挟みて縫付け、次に飾布幅一寸五分長さ一尺三寸の布を幅四分に折り、次に幅七分の所より又四分内側に折り、此布に片稜をとりて、丈を七寸になして、襷にてをさへ、此幅の真中にリボンをミシン縫にて兩端を縫付け、稜を取りて、糸を止め、次に普通の如く護謨紐をつけ、次に裏布

を付くるなり、飾に造花を付くるも可なり。

○幅一尺四寸、長さ二尺八寸五分の布を以て、籐入帽子の裁方及縫方。但裏は別布を用ふ

第百四十圖



出上り圖



縫方。幅六寸五分、長さ二尺八寸の布を、幅を二つ折にして、輪の方より五分入りたる所をグシ縫になし、一分間を置きて、今一度縫ひ、此所より八分離れたる所を四分摘みて縫ひ、此所より裁目

迄の中央をグシ縫にし、一分間を置きて、グシ縫をなし、此間に籐を入れ、次に布の丈と丈とを縫ひ合せて輪となし、裁目の方をグシ縫にして、頭の廻り寸法丈に縮め置き、次に頭布幅七寸、長さ二尺八寸を取りて、頭の真中になす方より幅六分入りたる所を二分摘んで縫ひ、此如く二三段縫ひ、折は下の方に返し、次に此より六分離れたる所を縫目になる様にして、幅一寸摘んでグシ縫をなし、一分間を置きて縫ひ、此中に籐を入れて一寸ほど籐を重ねる様になして、よく糸にて巻き、布の丈と丈とを縫合せて、三段縫ひ、縫ひたる糸を少し引締て飾となす、次に頭の廻りに縫付くる方を縮めてツバ布と共に縫ひ、次に頭の中になる方をグシ縫にて縮めよく糸止をなし、次にリボンを結びて真中に付け、次に裏布幅三寸八分より四寸位までの布にて、丈は頭の廻り寸法に縫



代の兩方分を加へたる丈をとり、丈と丈とを縫合せ、折は片返しにし、頭の中になる方を、丈五つに折り其折目々々を揃へて、五ヶ所を一所によく糸止めをなし、次に他の一端を折りて、頭廻りの所にまつり付くるなり。

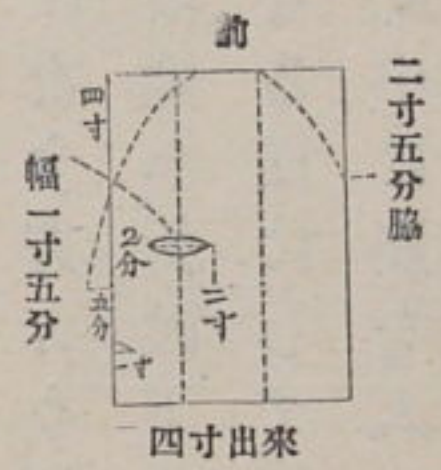
○日除頭巾の裁方。(地質白キヤリコ)

圖五十五百第

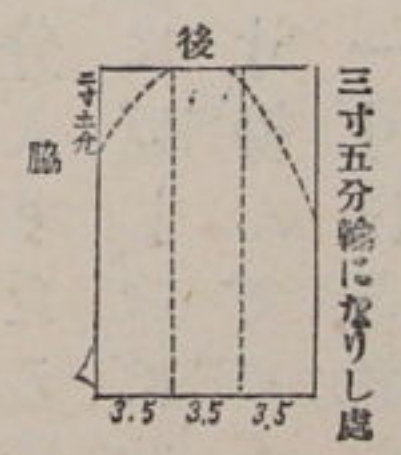
後丈一尺幅八寸出來  
前丈九寸



鼻切



幅一寸五分

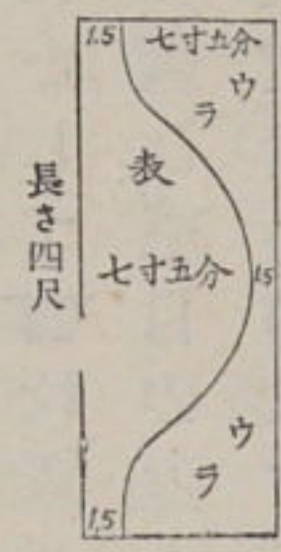


○常幅、長さ八尺の布を以て、船底頭巾の裁方及縫方。

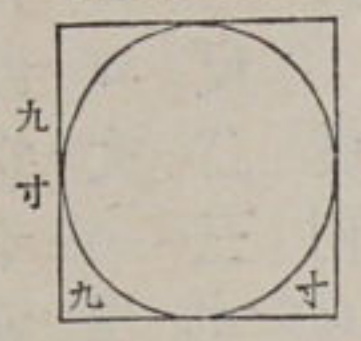
但裏は山繼

縫方。裏と表とを合せて、口の廻りを縫ひ、綿を入れて引返し、次

圖六十五百第



圖七十五百第



圖り上來出



縁幅七分にて  
地質黒襦子

に山の眞中を一枚残して、他は四縫になし、引返し、紵るなり。  
○大黒頭巾の裁方及縫方。  
縫方。大黒頭巾は裏と表とを揃へて丸く裁ち、七つ程ひだを取りて縁を心と共に付け、裏にて紵るなり、縁の繼は後の中央にてなす。

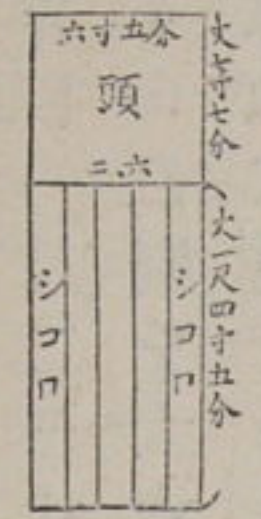
但なるべく前の方のひだを深くするなり。

○宗十郎頭巾の裁方。

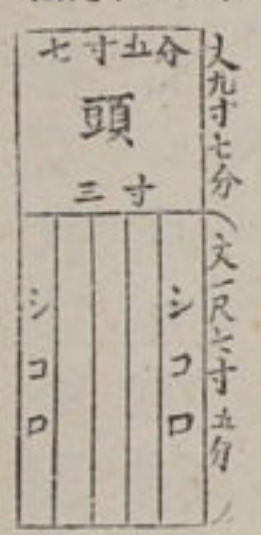
(宗十郎頭巾は澤村宗十郎の工夫せしものと云ふ。)

地質はメリンス、毛襦子、縮緬等にて色は紫、黒等。

圖八十五百第



圖九十五百第



七八歳の宗十郎頭幅の用布木綿幅なれば表七尺八寸裏三尺三寸、若し一尺二三寸の幅なれば、裏表にて四尺五寸を要す。シコロの幅を六寸にし、シコロの後ろは、袴の後ろ稜の様に六七分重ねて付くるなり。

大人の宗十郎頭幅は木綿幅九尺五寸を要す。但裏表共、シコロ丈一尺七寸五分、幅六寸七分上り。

幅一尺二三寸なれば、表六尺二寸、裏は木綿幅にて四尺を要す。

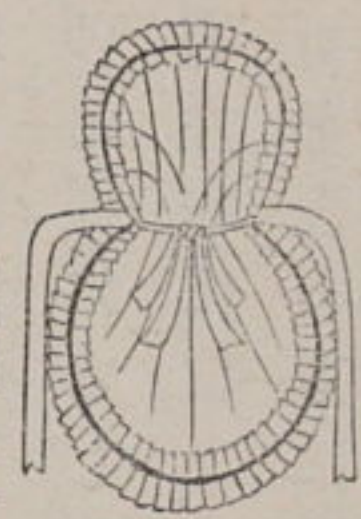
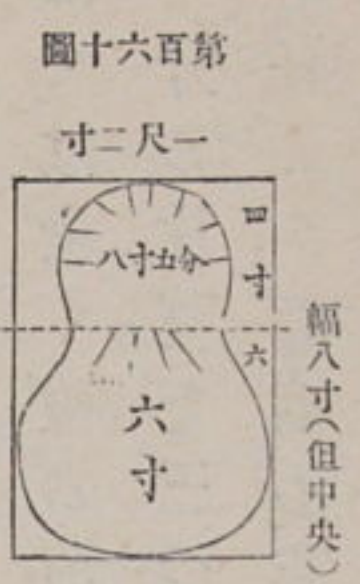
縫方。最初シコロの幅を定めて袋の様にシコロを縫ひ、引返して正しくなし、次に頭の切に幅の印を付け、裏表別々に丈二つ折りになして四枚重ねて縫ふなり、但下の方を二寸程表と裏とを別に縫ひ、縫目の返し方を前と定め、寸法通り明けてシコロを頭に縫付け、裏にて紵付くるなり。

○幅一尺二寸、丈一尺の絹寒冷紗を以て赤子の夏帽子裁方及

縫方。(但一重)

縫方。頭の前の真中に、幅一寸の中着稜を取り、其兩端に幅五分の片稜を一つづゝ取り、丈四寸下りし所まで稜を取り置き、裾口にては全く稜の消ゆる様になし、次に前より四寸下りし所に一分の片稜を三つ宛左右に取り、次に周圍を一分縫代になして格好よく縫縮め、其折を表の方に返し、次に幅七分、丈二尺の稜布を出し、幅七分の中着稜を取りて丈一尺に縮め、此稜布を左右に一分の稜を三つ取りたる初めの稜と終りの稜との間にて稜布も頭も縫代一分になして縫付け、次に幅一寸長さ九尺の稜布を出し、幅七分の中着稜を取り、頭の周圍だけに縮め置き、此布を先に附けたる稜幅より四五分入りたる所より、奥の方に當て、頭

の周圍に附け、一方の端にて稜布と稜布とを縫合せ、次に稜布幅の中央に表より返縫をなし、次に紐丈一尺以上一尺三寸位になり、四寸下りし所にて左右の裏に附け、次にリボン或は布にて蝶結を造り、紐を附けたる所と同様の所にて頭布幅の中間に飾に附くるなり。



方は斜の布にて幅七分、丈二尺を一枚と、幅一寸丈九尺一枚とを要す。但此布は繼ぎてよし。

○女合羽。

圖一十六百第

袖	袖	衿	衿	身	身	頃
袖丈一尺六寸		衿の巾は別切を三尺たすなり	衿丈二尺八寸六分	給肩二寸七分	身丈三尺九寸六分	

式

$$280, - 64, = 216,$$

衿肩廻

$$216, - 8, = 238,$$

$$39,6 \text{余} \times 2 = 79,2$$

衿の足布

$$79,2 - 30, = 57,2 \text{余}$$

算

$$16, \times 4 = 64,$$

衿の足切

$$216, + 30, = 246,$$

身丈

$$233, \div 6 = 39,6 \text{餘}$$

$$79,2 + 8, = 87,2 \text{餘}$$

左右の衿先

$$57,2 \div 2 = 28,6 \text{餘}$$

合羽は、降雨、降雪等の際に用ふるものなり、されば地質は地の厚薄に關せず、防水性を有するものにして、且つ襪色の憂なきものを用ふるを良しとす。

合羽には、袷、單衣の二種あり、仕立方に昔風の仕立方、被布仕立及道行仕立等あり。

○幅九寸五分、長さ二丈八尺の布を以て昔風の女合羽の裁方及積方。

但袖丈一尺六寸。衿衿三尺五寸と肩當布三尺との別布を要す。

積方。袖丈一尺六寸の四倍を總尺より減じ、其残りに足切の三尺を加へ、又衿肩廻し八寸を減じ、残りを六分し、身丈三尺九寸六分餘を得、又身丈の二倍に八寸を加へ、衿丈を得、此中より三尺を減じ、二にて除せば、左右の衿の切二尺八寸六分を得るなり。

○普通の仕立上寸法。

袖丈、一尺六寸五分、後幅(身やつ口の止りにて)七寸五分、

(裾口にて) 八寸五分、

袖幅、九寸、前幅(身やつ口の止りにて)五寸五分、

(裾口にて) 六寸、

袖口明き、六寸五分、袖付、六寸七分、行、一尺六寸七分

衿幅は、衿肩廻にて二寸五分、裾口より二尺上りし所にて三

寸五分、裾口、四寸。

○標附け方。

袖、單衣におなじ、されど上に着するものなれば丈を下に着するものより三分程長くなし、袖付を一分多くす。

身頃も單衣におなじ、されど、後幅を裾口の方にて五分以上一寸程廣くす。

衿幅を二つに折り、又丈も二つに折り、衿肩廻の處のみ輪の方より幅二寸五分とし、裾口にて幅四寸になし、裾口より二尺上りたる處にて幅三寸五分に印を付け、此三つの標に尺を渡して、丈四五寸位宛置きて、幅印をなし、次に耳の方にて丈四五寸づゝ隔て、合標あひじりを付け置くなり。

○單衣合羽の縫方。

先づ袖口布ある時は、普通の單衣物ひとへの如く、袖口布を袖口明丈縫



合羽の裁方及積方。(第百六十二圖)

但袖丈一尺五寸五分身丈三尺四寸の上りにて、堅衿下六寸にて小衿は共布を用ふ

○裁切り寸法。

袖丈 一尺六寸、 堅衿丈 二尺九寸、 小衿丈 一尺三寸、 身丈 三尺五寸七分五厘、 衿肩 二寸六分。

外に肩當布を常幅にて、長さ三尺と、飾になす打紐は、梅結の時は、鯨尺にて一丈二尺を要す。

○普通仕上げ寸法。

袖丈、下に着するものより三分長くなす。

袖口、下に着すものと同じ。袖付は一分長くす。

袖幅、一ぱい。

身丈は、着する人に依りて定む。

衿肩、下に着するものより一分大きくなす。行も一分長くす。

後幅、脇縫の止りにて、七寸五分、裾にていつぱい。

肩幅は、行と袖幅とに依りて定む。

前幅は、脇の縫代を後ろと同様に置ききて、裾口にて六寸五分、

脇縫の止りにて五寸五分になす。

堅衿下、衿下と同じ。(六寸)

堅衿幅、衿幅と同じ、即ち裾口にて四寸、上にて三寸五分。

小衿丈、堅衿下の二倍即ち一尺二寸。

小衿幅は小衿丈の三分の一。小衿左右の角の丸味は小衿丈の五分の一より四分多くす。但小衿には別布を心に入るゝなり。腰揚は普通後は肩山より一尺三寸下り、前は一尺四寸下りたる所にてなす。

○標の付方。

一先づ左右の袖を中表にして二枚重ね、丈を二つに折り、袖附の方に山標をなし、次に丈と口明と袖付との標を付け、次に袖口布を丈二つに折り、奥の方に山標をなし、次に口明及縫代の標を付く、身頃の表を中にして二枚揃へ、衿肩より丈を二つに折り、裾口を右に、脊を手前に、後身頃を上にして、裁板の上に置き、身丈を裁ち揃へ次に裾掛け八分或は一寸を除き、長き時は男服の如く腰の所に内場をなす。袖付と山印と脇明標と後幅と裾口にて一ばい肩幅との標を付け、次に後身を左に開き、前身頃に豎衿下及前幅の標を附くるなり、但衿の時は、裏も表と同様に標を付け、丈は裏を五分短くし、長き時は肩にて揚をなす次に豎衿を中表になして二枚重ね、次に幅を二つに折り、折目を手前に、裾を右にして

下に置き、丈及上下の幅標を付け、次に丈の中央にて裾口幅と上の幅との差の半分だけ狭く印をなし、次に丈に四五寸位づゝ間を置きて合標をなす、それより小衿を取り、中表にして幅を二つに折り、次に丈を二つに折りて、丈と幅との標を付け、次に角の所に丸味の標を付くべし。  
天鷲絨等の如き、地厚き品を小衿に用ふる時は、幅を狭く即一寸四五分より一寸八分位とし、折らずに着するを普通となす、故に厚紙を心に入るゝなり。

○縫方。

單羽織の如く左右の袖に袖口布を縫付け、次に袖下を袋縫にし、て袖を拵へ、次に身頃の脊を縫ひ、肩當を付け、前身頃を幅印より豎衿を付くるとき縫代だけ二分廣くなし、其所より裏に折返

し、前肩當の丈の終りまでは布の間にて袷の如く縫合せ置き、次に身頃の折込みの端を綴付け置き、次に裾を三つ折にして襟を掛け、次に豎衿の表と裏にて前身頃を挟み、豎衿の合標を合せ、裾口より豎衿下まで縫ひ、次に衿先を縫ひ、裏に返して縫込みを綴付け、引き返して上を小針に紵け、但上の縫代は表衿にてくるみて裏に返す。次に兩脇を縫ひ、それより裾掛をなし、衿肩廻を綴ぢ、小衿の表に心を入れ、被布の小衿の如く之を縫ひ、身頃の裏と小衿の表とを合せて縫付け、表にて紵るなり、次に左右の袖を付け、折は身頃の方に返し、八つ口と脇の縫込とを綴ぢ、次に左脇の裏并に右豎衿の表に、肩より二尺位下りて長さ七八寸の細き紐を付け、それより被布の如く飾紐を付くるなり、但梅結の時は上前豎衿の先に玉の付きし結を付け、下前身頃に小衿と豎衿との間

に輪の付きし結を付け、上前豎衿の縫目より衿幅の山に寄りたる所に玉の付きし結を付け、上前身頃の表にも下前身頃と同所に輪の付きし結を付け、次に上前豎衿丈の中央には梅結の先に打紐を輪になして、丈八寸以上一尺位のものをつけ、下前身頃幅の中央にて上前豎衿と同様の所に結を付け、次に下前豎衿上端及上前豎衿下の止りの所にフック(俗にホック)と云ふ、或は細き紐を付くるなり。

飾打紐には、梅結、蕨(わづら)、三つ輪等あり、隋意好みに依りて付くべし、梅結は長さ凡そ一丈二尺、其他は五尺位を要す。

○常幅の布を以て女合羽の裁方及積方。(第百六十三圖)

但袖丈一尺六寸五分、身丈三尺六寸、豎衿下四寸五分、

此の仕立方を被布仕立の合羽と云ふ。



圖四十六百第

項身	項身	豎	豎	小	袖	袖
				衿		
六	六	衿	衿	口	口	口

算式

袖	總尺
$16, \times 4 = 64,$	$275, - 64, = 211,$
袖口布	豎衿下
$211, - 15, = 196,$	$5,5 \times 2 = 11,$
$196, + 11, = 207,$	$207, \div 6 = 34,5$ 身丈
$34,5 - 5,5 = 29,$ 豎衿丈	

但小衿幅を狭くなし、袖口を共布にて附け、袖丈一尺六寸、豎衿下五寸五分の裁切となす。

方及積方。 第一百六十四圖

時の足不布用ては法寸じ同と記前  
方積及方裁の

圖五十六百第

後身項	前	前	後身項	豎	豎	袖	袖
六	六	六	六	六	六	六	六

算式

袖丈	總尺
$16, \times 4 = 64,$	$270, - 64, = 206,$
豎衿下	$206, + 11, = 217,$
$5,5 \times 2 = 11,$	$36,1 - 5,5 = 30,6$ 豎衿丈
$217, \div 6 = 36,1$ 身丈	

但小衿幅を狭くなし、袖口を共布にて附け、袖丈一尺六寸、豎衿下五寸五分の裁切となす。

圖三十六百第

口	口	口	豎	袖
七	六	六	三	一

衿肩一寸七分	身丈三尺六寸	豎衿三分	袖丈一尺六寸
--------	--------	------	--------

算

袖丈
$16,5 \times 4 = 66,$
$66, + 216, = 282,$
$282, - 9, = 273,$ 用布

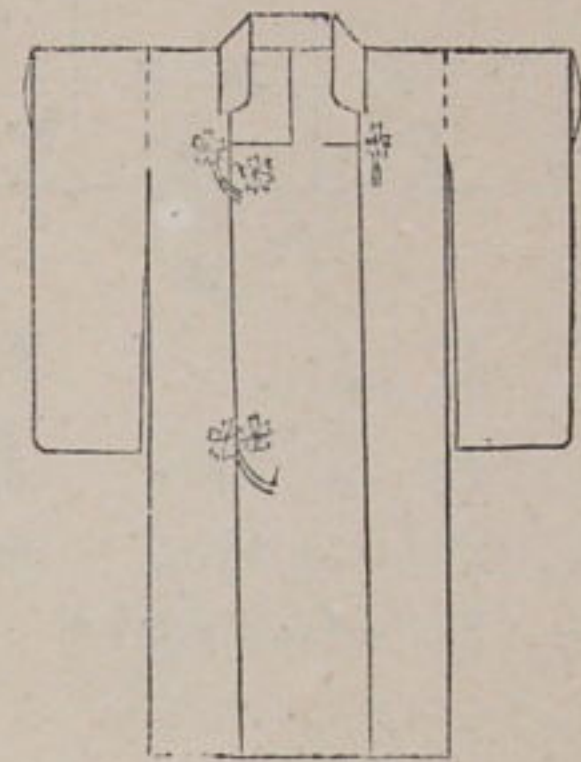
式

身
$36, \times 6 = 216,$
豎衿下
$45, \times 2 = 9,$

○常幅長さ二丈七尺五寸の布を以て、被布仕立、女單、合羽の裁

積方。袖丈の四倍と身丈の六倍とを加へ、豎衿下の二倍を減ずれば用布を得。但小衿は別布にて幅四寸丈一尺三寸を要し、袖口布は木綿幅四つ割にて丈一尺六寸を二枚要し、肩當は常幅にて丈三尺を要す、外に豎衿を止むるに打紐長さ一丈二尺を要す。肩當に衿肩を明くる時、前丈より後丈を一寸長くなす。

圖六十六百第



○十六七歳の女合羽出来上りの寸法。

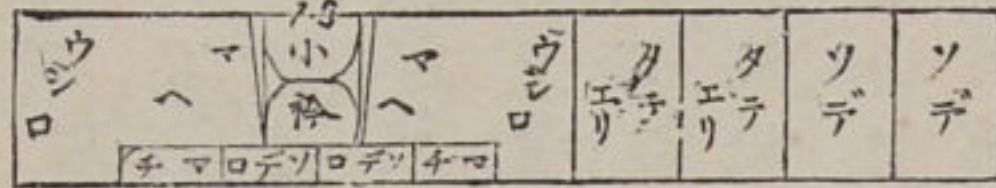
身丈三尺四五寸、袖丈一尺六七寸、身幅後八寸、前六寸、  
 豎衿幅一ばい、豎衿下五寸、  
 小衿丈一尺三寸、小衿幅一寸七分。

○幅九寸五分、長さ二丈三尺の布を以て、單被布の裁方及積方。

但袖丈一尺五寸、豎衿下六寸。(第百六十七圖)

積方。袖丈の四倍と小衿の丈一尺三寸とを總尺より減じ、其残り一丈五尺七寸に豎衿下の二倍即ち一尺二寸を加へ、其中より前下の二倍即ち三寸を減じ、六にて除せば後丈を得、又是に前下一寸五分を加ふれば前丈を得、後身丈より豎衿下を減ずれば、豎

圖七十六百第



ソデ 豎衿二尺一寸  
 ヲデ 六分  
 タテ 前下一寸五分  
 エリ 後丈二尺七寸  
 ヲテ 六分  
 ヲテ 衿肩二寸七分  
 マ 前丈二尺九寸  
 マ 一分  
 マ 袖口一尺五寸  
 マ 袖口一尺五寸

算式

袖丈 15, × 4 = 60,	230, - 60, = 170,
小衿 170, - 13, = 157,	豎衿下 6, × 2 = 12,
157, + 12, = 169,	前下 1,5 × 2 = 3,
169, - 3, = 166,	166, ÷ 6 = 27,6 <sup>餘</sup> 後身丈
前下 27,6 + 1,5 = 291, 前丈	後丈 豎衿下 27,6 - 6, = 21,6 豎衿丈

衿丈を得るなり。

○單被布を仕立つる寸法。

袖丈は着物より三分長く  
 袖附は着物より一分長く  
 袖口六寸五分、袖幅八寸七分、身の八つ口二寸七分、身丈二尺四五寸。行一尺六寸五分、後幅七寸五分、前幅四寸八分、襠幅は下前下は一寸、豎衿下は衿肩より六寸、小衿丈は一尺二三寸、幅三寸以上、四寸位迄になり。

○單被布の縫方。

先づ表袖を自己の方に、袖口布を自己の向ふにして、口明標より標まで縫ひ、口明を四つ止めになして袖下を縫ひ、袖口布を紵附けて下に置き、袖幅八寸七分に印を付け、やつ口を綴ぢ、次に脊を縫ひ、折目は衿肩を右に持ちて自己の方に返して下に置き、後幅七寸五分、肩幅七寸八分、前幅五寸に印を付け、前裾を三つ折にして、襟を掛け、次に豎衿下の所は肩より三寸下りし所より始め、豎衿下の止まで細く三つ折紵になし、次に豎衿にて前身頃をくろみ裾口より豎衿下の所まで縫ひ付けて折りは豎衿の方に返し、次に裾口を縫ひ裏に折りを付け、引返して上方を紵け、次に襠幅は前方を後より二分程多く曲げて下を一寸八分、上を三分に印を付け、次に上の方を三つ折りになして紵け、次に襠と身頃とを

揃へて縫ひ、折目は身頃の方に返し、縫込を綴付け、次に裾を紵け、次に袖を付け、折目は袖の方に返し、次に小衿の幅を三寸五分位にして、月形に裁ち、心を入れて之を縫ひ、然る後小衿の表になる方を身頃の裏の方に縫付け、之を表に紵け、次に打紐の結を附くるなり。但小衿を縫ふ時裏になす方を幅も丈も一分づゝ全體に縫込むなり。

○女衿被布の縫方。

先づ袖は衿の如くに揃へ、次に身頃の前後の胴繼をなし、折は裏に返し、次に表身頃を自己の方に、裏を自己の向ふにして衿肩を右に持ち、表と裏とを四枚共に縫ひ、後幅及肩幅と前幅との印を付け、前下は、表は印の處、裏は印を一分縫込み、前幅の印まで縫ひ折は裏の方に返し、次に襠の上部の縫代を裏表共布の裏に折込

み置きて後の身頃に襦を挟み、裾口を能く糸止めし、それより襦丈の終り迄縫ひ、此所をも能く糸を止め、身のやつ口をも縫ひて引返し、次に前身頃にて、襦を挟み、後ろの如く袖付印まで縫ひて引返し、次に袖附は身頃と袖とを四枚共に止め、表袖を附け、折目は袖の方に返し、次に裏袖を附け、折目は身頃の方に返し、豎衿のは裾口と上とを縫ひ、前身頃にて、豎衿をくるみ、裾口より始め、豎衿下の止りより三寸上りし所まで縫ひて引返し、次に小衿を拵へて附け、次に打紐の結を附くるなり。

○綿入被布の縫方。

先づ綿入の如くに袖を拵へ、次に前後の胴縫をなし、次に脊を縫ひ、後幅七寸五分、肩幅七寸八分、前幅五寸に印を附け、前下を縫ひ、針目を五分位になし、裏の表に小針に一針づゝ出して隠躰を掛

け、次に襦幅は下一寸八分、上四分に印を附け、身頃を拵へ、待針を刺して前後の襦を附け、折目は身頃の方に返し、次に表の前身頃の端に表豎衿を附け、折目は豎衿の方に返し、次に普通綿入の如く身のやつくちを縫ひ、次に袖を附け、次に豎衿下の所を、豎衿丈の終より上二三寸の間は、表身頃を縫代だけ裏に折返して躰を掛け、次に綿を入れ、袖口を拵け、豎衿の上と下とを縫ひ、裏に返して前幅を拵へ、豎衿の縫目を裏身頃に綴附け、(但豎衿に心を入れる時は、心も共に綴付くるなり)次に豎衿下の所を豎衿丈の終より、二三寸上りし所まで拵けながら豎衿の裏を拵付け、次に前襦と脊縫とを綴ぢ、次に小衿を附け、次に結紐を附くるなり。

渡邊先新裁縫教科書卷之一終

375.5  
W 46

1992年10月19日  
104631  
生活資料館

明治四十一年五月二日印  
明治四十一年五月五日發  
明治四十一年八月一日再版印刷發行

壹部  
三冊  
定價金貳圓

不許  
複製

特約販賣所

編輯者兼  
發行所  
印刷者  
印刷所

東京市本郷區東竹町三十五番地  
渡邊  
東京市牛込區市ヶ谷加賀町二丁目十二番地  
天野耕  
東京市牛込區市ヶ谷加賀町二丁目十二番地  
株式會社 秀英舍第一工場  
東京市本郷區東竹町三十五番地  
東京裁縫女學校出版部  
(電話下谷三三〇番)



東京市日本橋區鐵砲町三番地 文盛堂  
東京市日本橋區數寄屋町九番地 六合館  
東京市京橋區南傳馬町二丁目五番地 林  
東京市日本橋區大傳馬町二丁目廿一番地 文林堂  
東京市神田區表神保町 淺目  
大阪市東區南久寶寺町四丁目十九番屋敷 前川  
原友次  
平書次  
見文書  
京善兵衛  
吉郎店吉堂



東京裁縫女學校  
出版

